

平成30年度  
男女共同参画に関する意識調査

平成30年10月

帯広市

# 目 次

I	調査の概要		
1	調査の目的	.....	1
2	調査の内容	.....	1
3	調査の方法	.....	1
4	回収結果	.....	1
5	回答者の属性	.....	1
6	本書の見方	.....	2
7	比較に用いた数値について	.....	3
II	調査の結果		
1	男女共同参画に関する言葉について		
問1	見たり聞いたりしたことのある言葉	.....	4
2	家庭生活について		
問2	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方	.....	6
問3	家庭での家事・育児の役割分担	.....	8
問4	男性が家事等に積極的に参加するために必要なこと	.....	10
問5	仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度(希望)	.....	12
問6	仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度(現実)	.....	13
3	職業について		
問7	女性が職業をもつこと	.....	16
問8-1	現在の社会での女性の働きやすさ	.....	18
問8-2	女性が働きやすい状況にあるとは思わない理由	.....	20
4	男女の人権について		
問9	女性の人権が尊重されていないと感じること	.....	22
問10-1	DVについて経験したり見聞きしたこと	.....	24
問10-2	被害を受けた人のDVについての相談先	.....	26
問11	セクハラについて経験したり見聞きしたこと	.....	28
問12	女性に対する暴力をなくすためにすること	.....	30
5	男女共同参画について		
問13	女性の意見が政治や行政に反映されているか	.....	32
問14	男女の地位の平等感	.....	34
問15	女性のリーダーを増やすときに障害となるもの	.....	36
問16	帯広市が男女共同参画をすすめるために重要なこと	.....	38
6	セクシュアル・マイノリティについて		
問17	セクシュアル・マイノリティ又はLGBTという言葉	.....	40
問18	セクシュアル・マイノリティのイメージ	.....	42
問19	セクシュアル・マイノリティへの理解をすすめるには	.....	44
	調査全体をとおして	.....	46
III	調査票	.....	49

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

男女共同参画社会の実現に向け、市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握するため5年毎に調査しているものであり、調査結果は第2次男女共同参画プランの進捗管理に用いるとともに、次期プラン（平成32年度～）策定の基礎資料とするものです。

## 2 調査の内容

- (1) 男女共同参画に関する言葉について
- (2) 家庭生活について
- (3) 職業について
- (4) 男女の人権について
- (5) 男女共同参画について
- (6) セクシュアル・マイノリティについて

## 3 調査の方法

- (1) 調査対象 帯広市に住所を有する20歳以上の男女 1,000人
- (2) 抽出方法 地区別・男女別・年齢階層別無作為抽出
- (3) 調査方法 郵送による自記式アンケート
- (4) 調査期間 平成30年4月27日～平成30年5月15日

## 4 回収結果

- (1) 有効発送数 995人
- (2) 回収数 391人
- (3) 回収率 39.3%（平成25年度37.4%、平成20年度34.8%）

## 5 回答者の属性

### (1) 男女別回答数

	回答数	比率
女性	238	60.9%
男性	151	38.6%
その他	2	0.5%

### (2) 年代別回答数

	回答数	比率
20～29歳	30	7.7%
30～39歳	41	10.5%
40～49歳	58	14.8%
50～59歳	78	19.9%
60～69歳	85	21.7%
70歳以上	99	25.3%

(3) 既婚・未婚別回答数

	回答数	比 率
未婚	54	13.8%
既婚	279	71.4%
離別または死別	56	14.3%
無回答	2	0.5%

(4) 家庭形態別回答数（既婚者のみ）

	回答数	比 率
共働き	135	48.4%
共働きでない	119	42.7%
その他	11	3.9%
無回答	14	5.0%

(5) 職業別回答数

		回答数	比 率
自 営 業	農林漁業	5	1.3%
	商工サービス業	28	7.2%
	自由業	13	3.3%
雇 用 者	民間会社・工場等	162	41.4%
	公務員、教員	24	6.1%
無 職	主婦	71	18.2%
	その他無職(学生含む)	51	13.0%
その他		19	4.9%
無回答		18	4.6%

6 本書の見方

- (1) 表中「N」とは、回答総数のことです。
- (2) 回答率は少数第2位を四捨五入しました。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- (3) 質問で、「いくつでも」のように複数回答を認めている場合は、その回答率の合計は100.0%を超える場合があります。
- (4) 男女共同参画の推進に向けたご意見、ご要望等の自由記述の部分については、今後の施策の参考として活用させていただきます。

## 7 比較に用いた数値について

- 「25年調査」  
「平成25年度 男女共同参画に関する意識調査」(平成26年7月)  
の調査結果を使用しています。
- 「20年調査」  
「平成20年度 男女共同参画に関する意識調査」(平成20年11月)  
の調査結果を使用しています。
- 「北海道27年調査」  
「平成27年度 道民意識調査」(北海道 平成27年8月)  
の調査結果を使用しています。
- 「国28年調査」  
「男女共同参画社会に関する世論調査」(内閣府 平成28年10月)  
の調査結果を使用しています。
- 「国24年調査」  
「男女共同参画社会に関する世論調査」(内閣府 平成24年10月)  
の調査結果を使用しています。

## Ⅱ 調査の結果

### 1. 男女共同参画に関する言葉について

問1 次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものを、いくつでもお選びください。

○見たり聞いたりしたことのある言葉について、「DV（配偶者からの暴力）」と答えた人の割合は95.7%と最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」と答えた人の割合は89.3%、以下「育児介護休業法」（73.9%）、「男女共同参画社会」（62.4%）、「ジェンダー（社会的、文化的に形成された性別）」（51.2%）の順となっている。（上位5項目）

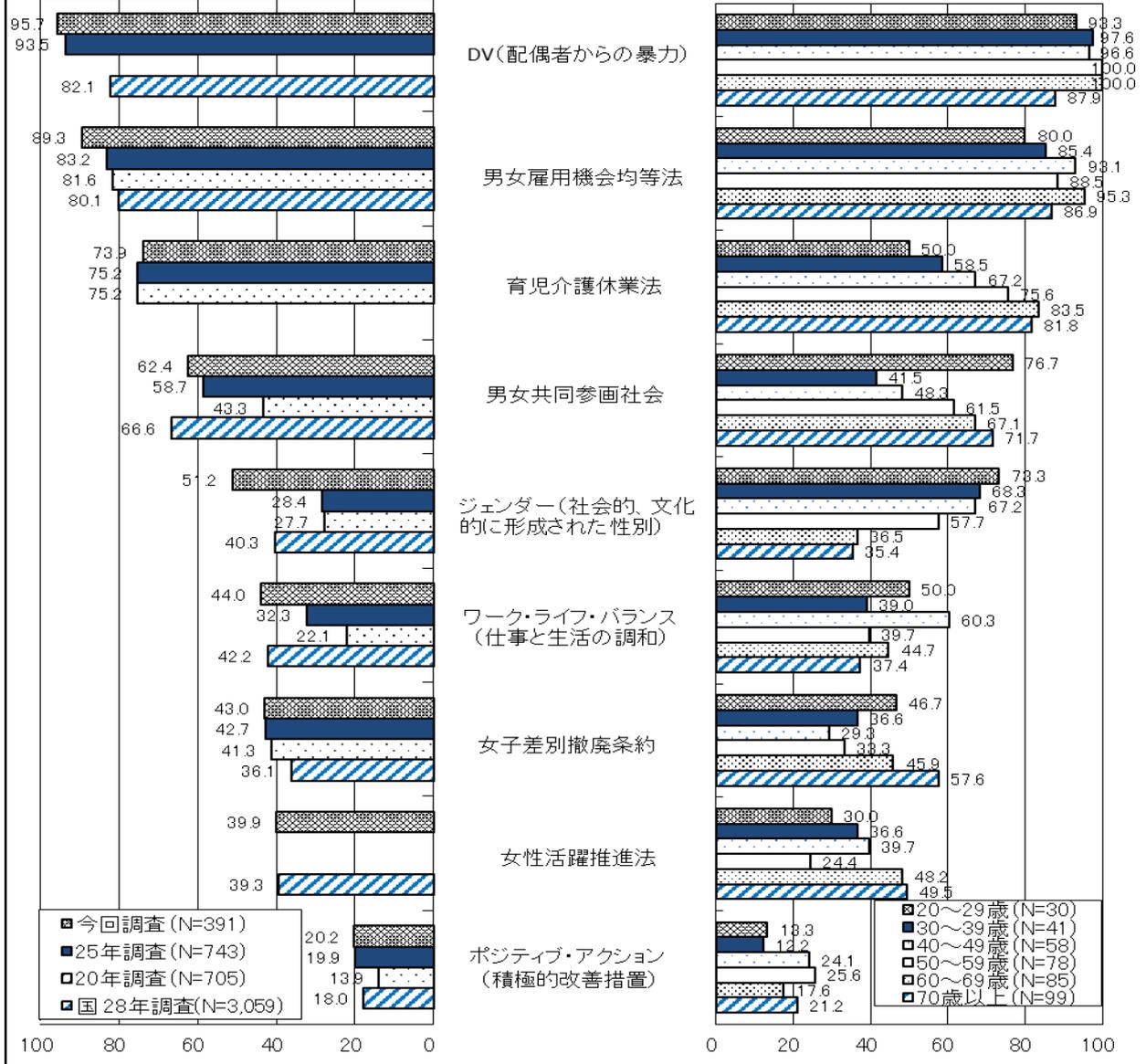
○25年調査と比べて見ると、「ジェンダー（社会的、文化的に形成された性別）」と答えた人の割合は25年調査の28.4%に対し今回調査は51.2%、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」と答えた人の割合は25年調査の32.3%に対し今回調査は44.0%と、今回調査がいずれも10ポイント以上高くなっている。

○国と比べて見ると、「DV（配偶者からの暴力）」と答えた人の割合は国の82.1%に対し、帯広市は95.7%、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」と答えた人の割合は国の42.2%に対し、帯広市は44.0%、「女性活躍推進法」と答えた人の割合は国の39.3%に対し、帯広市は39.9%と高くなっている。

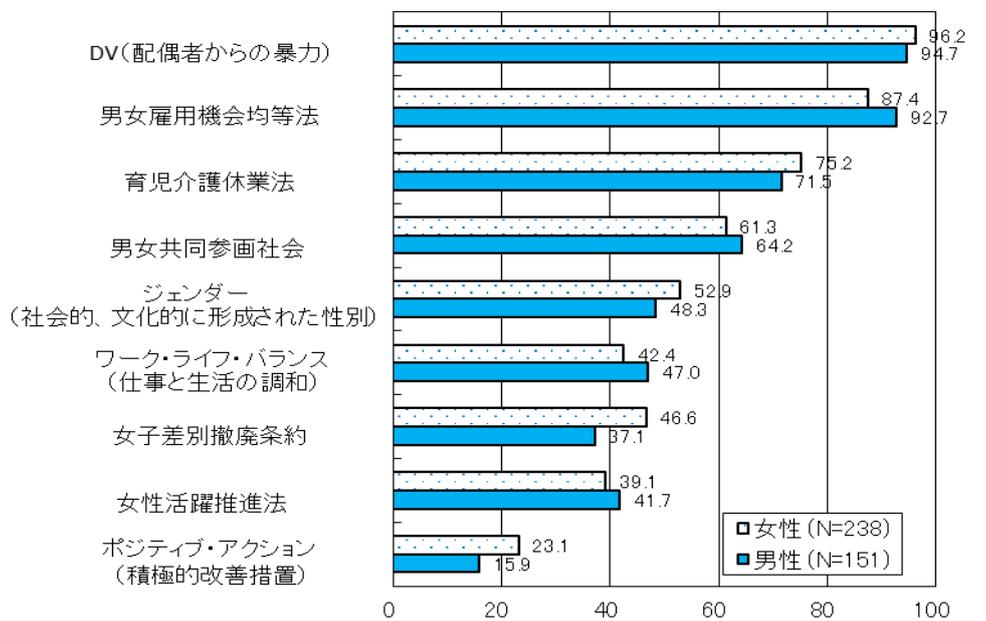
○年代別で見ると、「DV（配偶者からの暴力）」と答えた人の割合はすべての年代で高く、「男女雇用機会均等法」と答えた人の割合は40歳代及び60歳代で、「育児介護休業法」と答えた人の割合は60～70歳以上で、「男女共同参画社会」と答えた人の割合は20歳代及び70歳以上で、「ジェンダー（社会的、文化的に形成された性別）」と答えた人の割合は20～30歳代で、それぞれ高くなっている。

○性別で見ると、「DV（配偶者からの暴力）」と答えた人の割合は女性で96.2%、男性で94.7%と男女いずれも最も高く、「育児介護休業法」「ジェンダー（社会的、文化的に形成された性別）」は女性の方が高く、「男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会」と答えた人の割合は男性の方が高くなっている。

図1 見たり聞いたりしたことのある言葉



(男女別)



## 2. 家庭生活について

問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。  
次の中から、1つだけお選びください。

○「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「賛成」とする人の割合は28.2%（「賛成」4.9%+「どちらかといえば賛成」23.3%）、「反対」とする人の割合は60.9%（「反対」28.4%+「どちらかといえば反対」32.5%）となっている。

○25年調査と比べて見ると、「賛成」とする人の割合は25年調査で38.0%、今回調査で28.2%と低く、「反対」とする人の割合は25年調査で50.7%、今回調査で60.9%と高くなっている。また、国と比べて見ると、「賛成」とする人の割合は国の40.5%に対し帯広市は28.2%と低く、「反対」とする人の割合は国の54.3%に対し帯広市は60.9%と高くなっている。

○性別で見ると、「賛成」とする人の割合は女性で25.2%、男性で33.1%と男性の方が高く、「反対」とする人の割合は女性で65.5%、男性で53.0%と女性の方が高くなっている。男女とも25年調査と比べ、「賛成」が減少、「反対」が増加している。

○年代別で見ると、「賛成」とする人の割合は70歳以上で35.4%、「反対」とする人の割合は20歳代で70.0%と、それぞれ高くなっている。

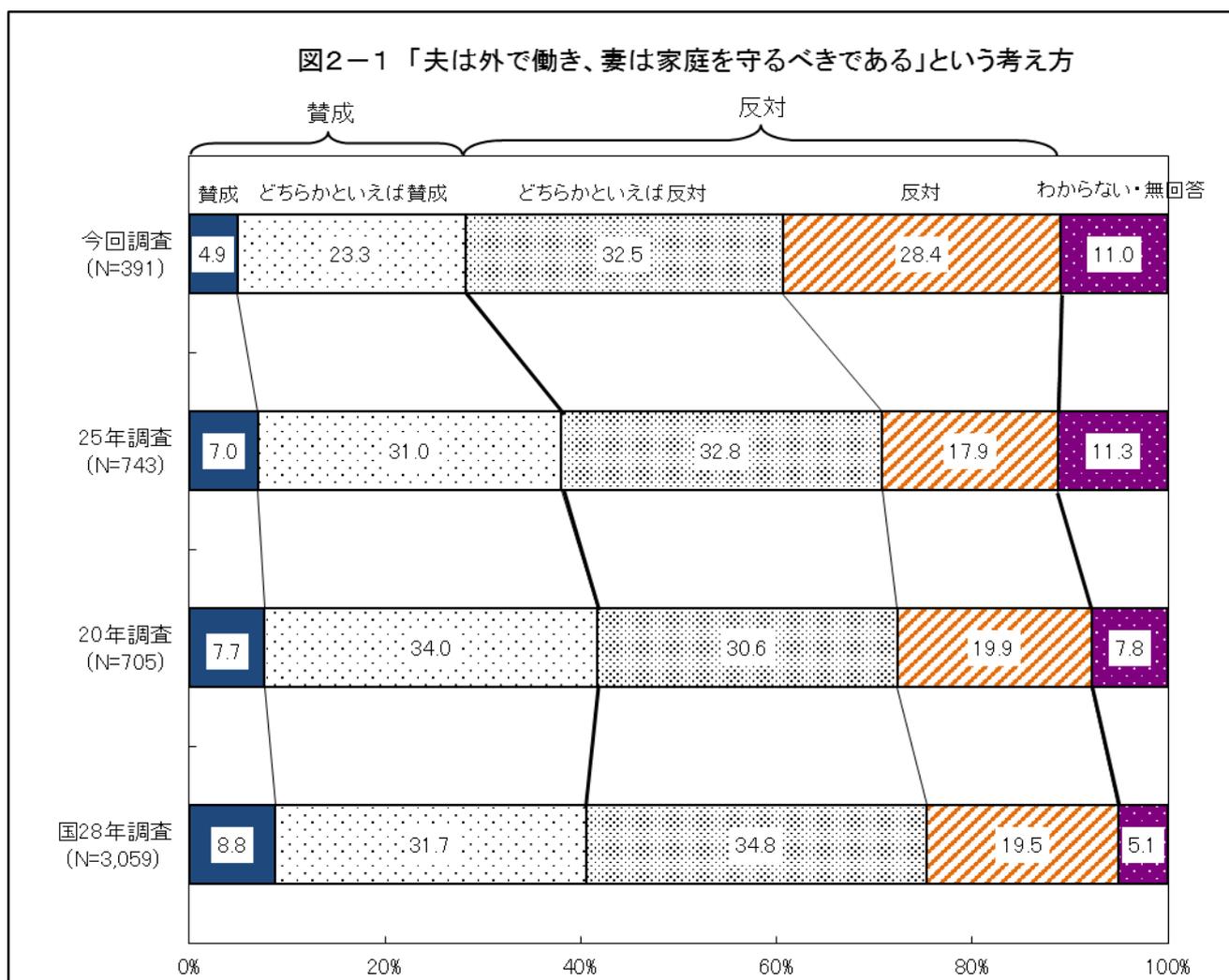
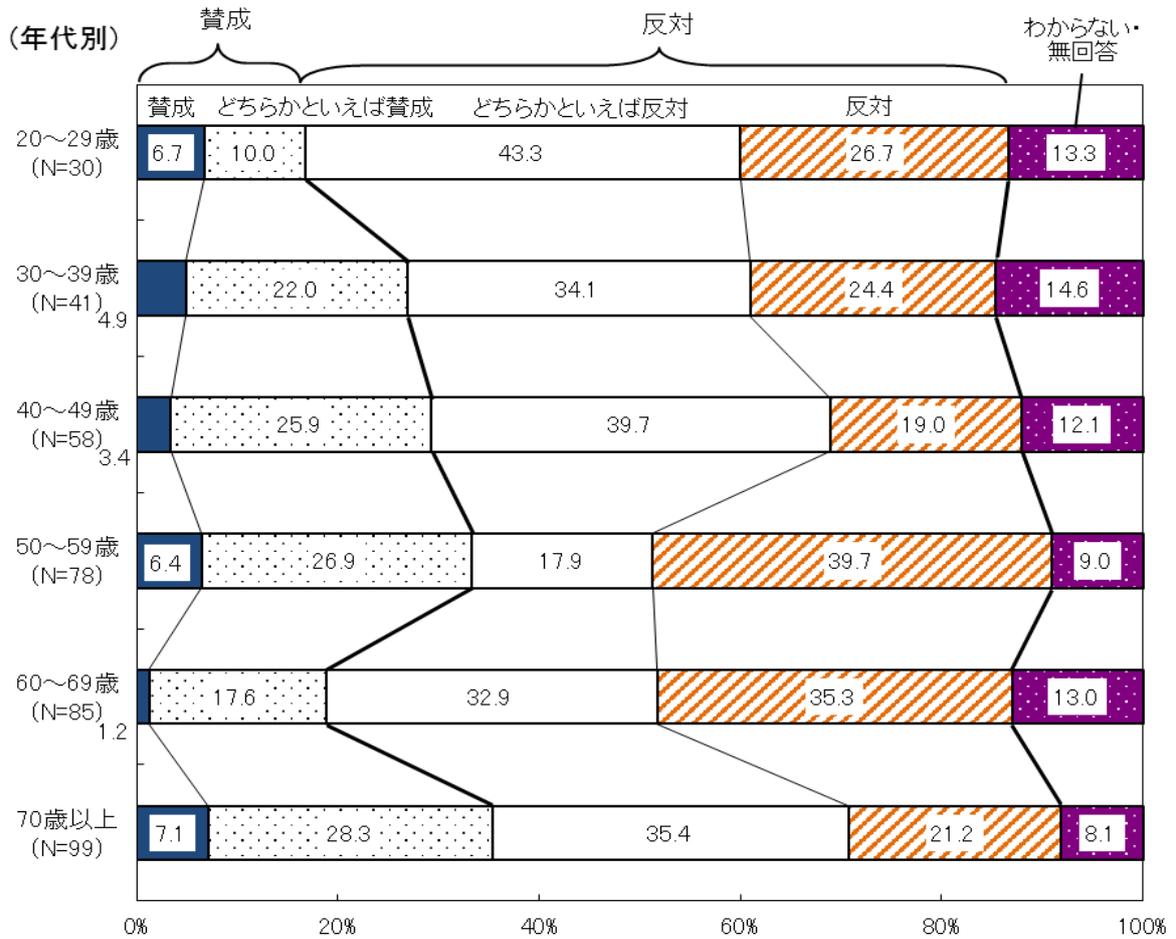
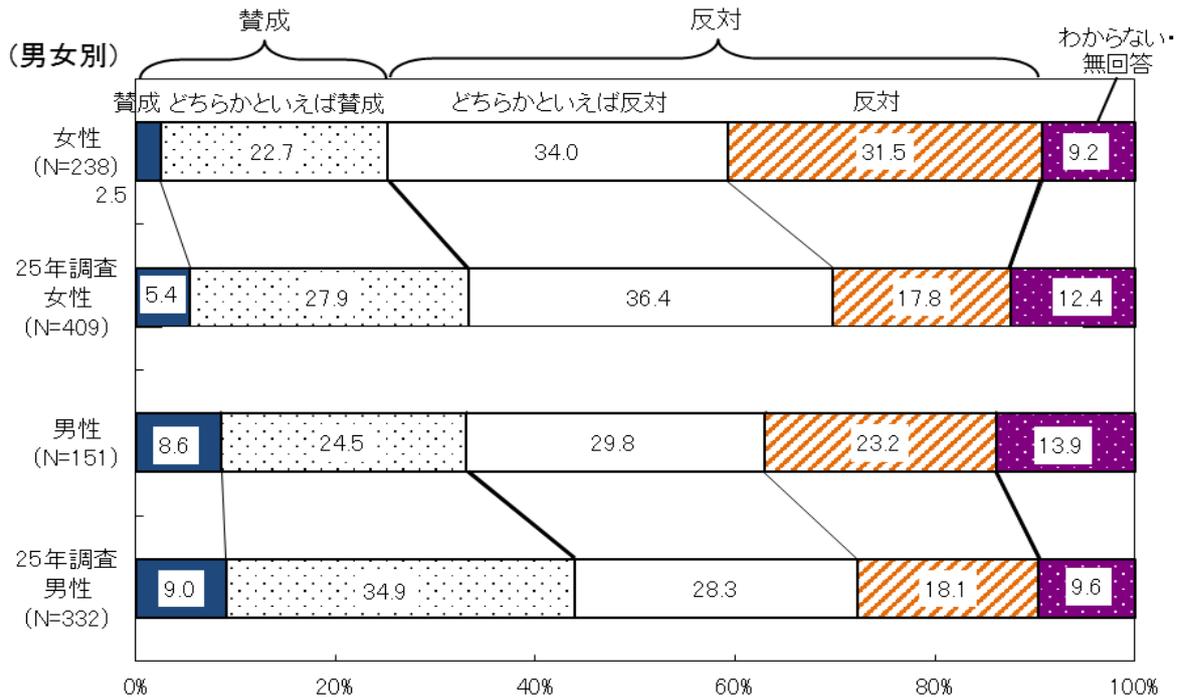


図2-2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方



**問3 一般的に、家庭での家事、育児、介護の役割分担について、あなたはどのように考えますか。次の中から、1つだけお選びください。**

○家庭での家事や育児の役割分担について、「どちらでも手のあいている方が家事、育児、介護をすればよい」と答えた人の割合は63.7%と最も高く、次いで「男女とも同じように家事、育児、介護を行うのがよい」と答えた人の割合は23.0%、「家事、育児、介護は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」と答えた人の割合は9.0%となっている。

○25年調査と比べて見ると、「どちらでも手のあいている方が家事、育児、介護をすればよい」と答えた人の割合は25年調査の49.8%に対し今回調査は63.7%、「男女とも同じように家事、育児、介護を行うのがよい」と答えた人の割合は25年調査の18.0%に対し今回調査は23.0%と、いずれも高くなっており、「家事、育児、介護は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」と答えた人の割合は25年調査の27.3%に対し今回調査は9.0%と低くなっている。

○性別で見ると、「どちらでも手のあいている方が家事、育児、介護をすればよい」と答えた人の割合は女性の方が、「家事、育児、介護は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」と答えた人の割合は男性の方が高くなっている。

○年代別で見ると、「家事、育児、介護は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度がよい」と答えた人の割合は50歳代及び70歳以上で、「男女とも同じように家事、育児、介護を行うのがよい」と答えた人の割合は20歳代で、それぞれ高くなっている。

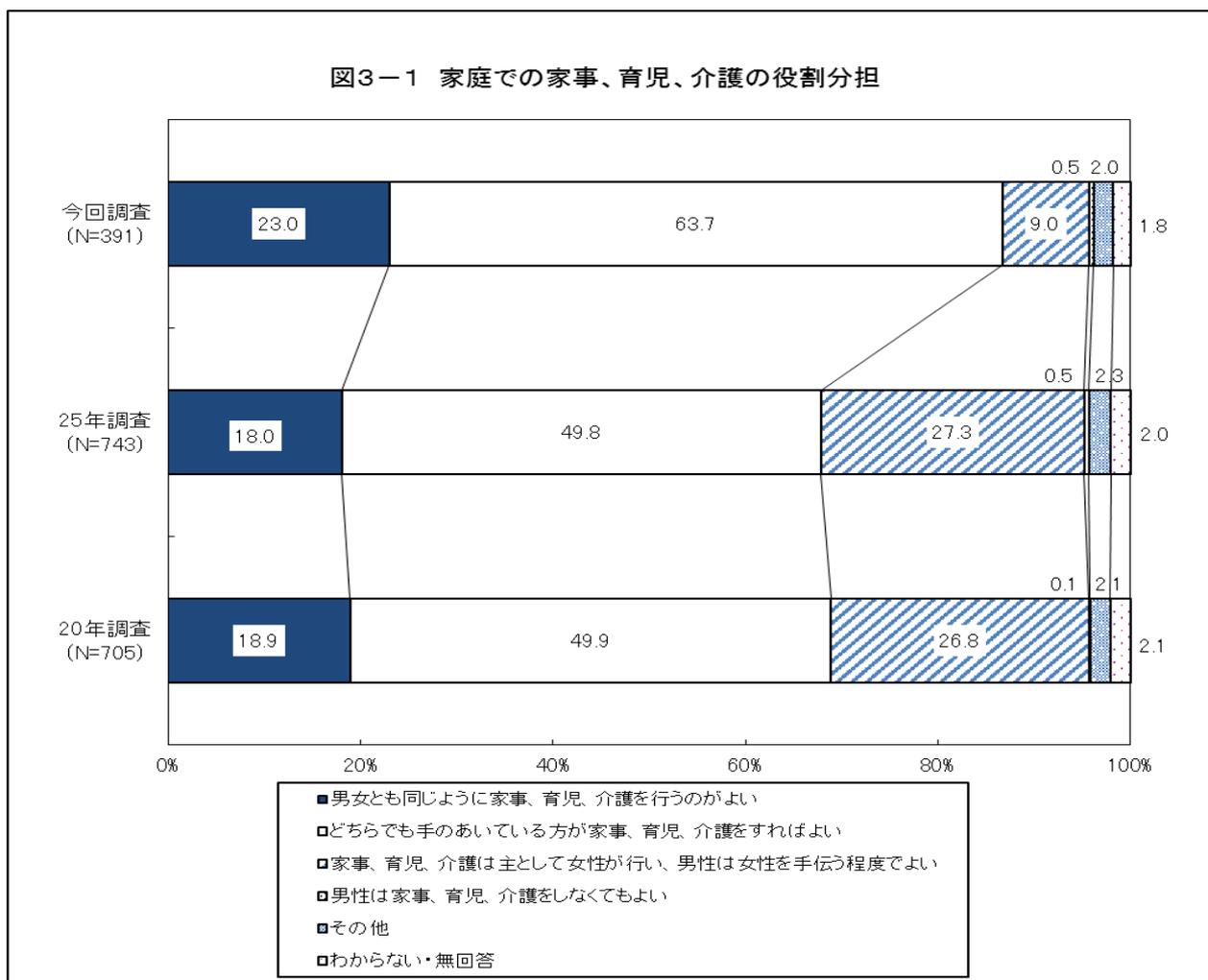
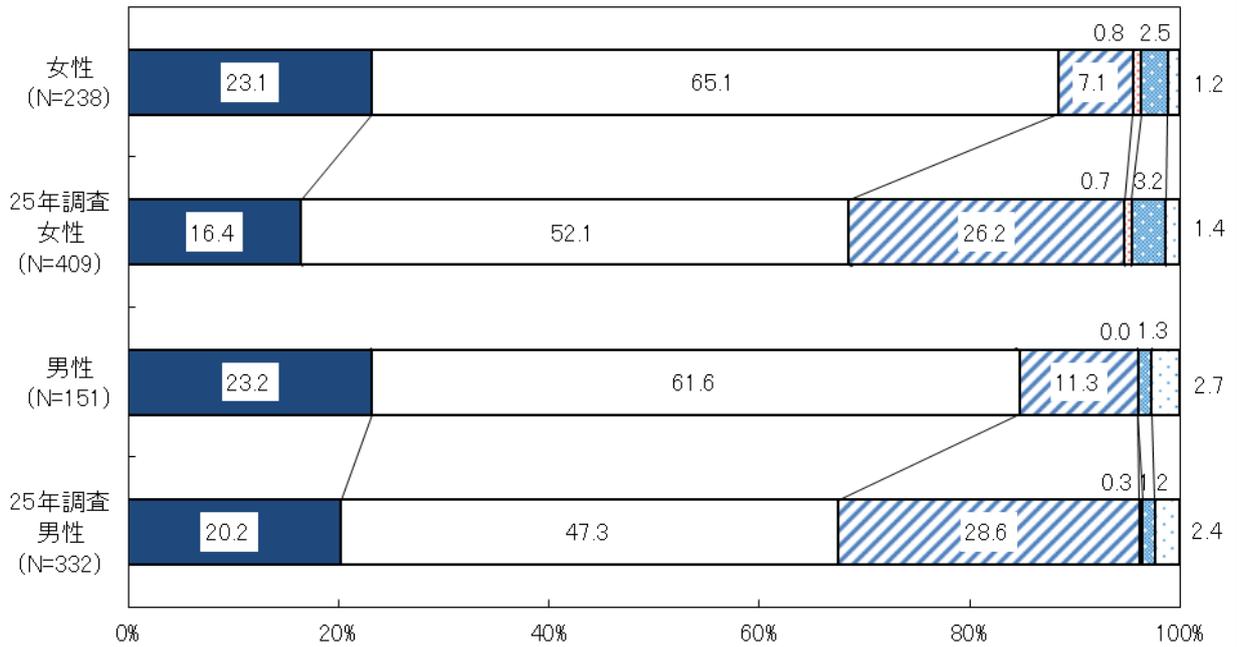
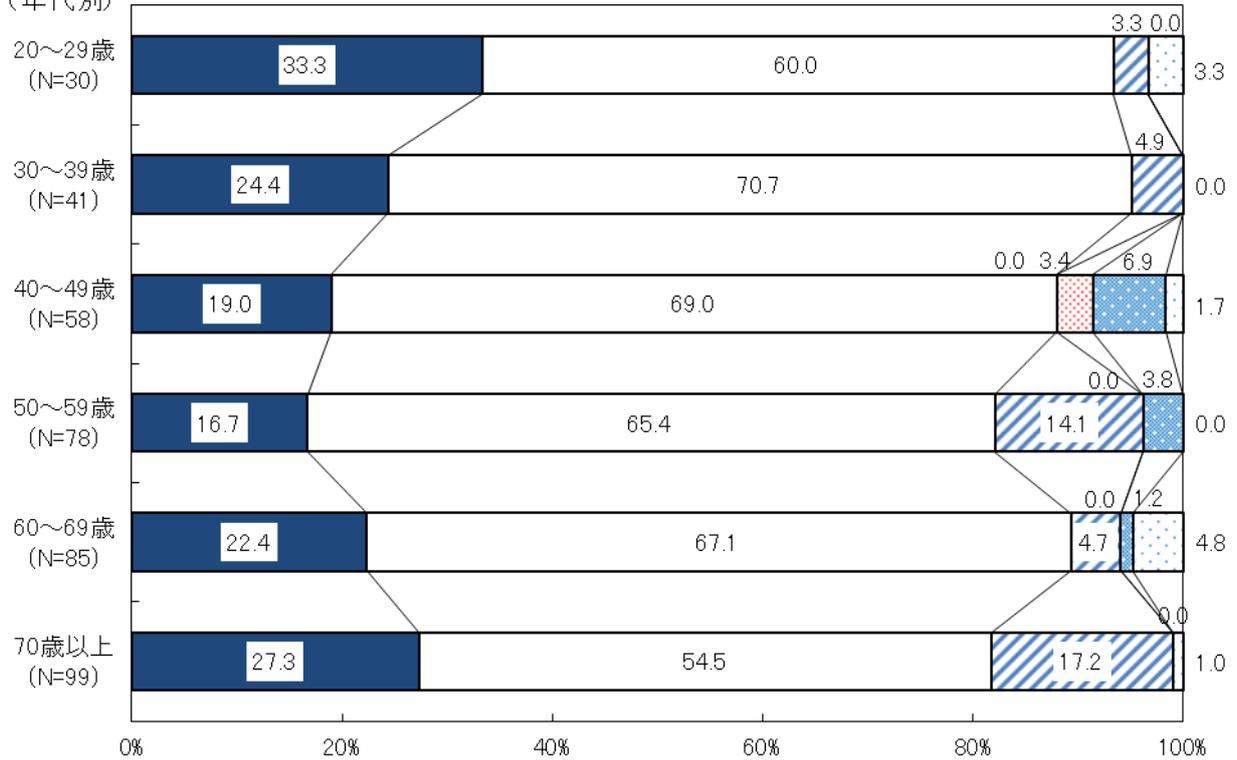


図3-2 家庭での家事、育児、介護の役割分担

(男女別)



(年代別)



- 男女とも同じように家事、育児、介護を行うのがよい
- どちらでも手のあいている方が家事、育児、介護をすればよい
- ▨ 家事、育児、介護は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい
- ▩ 男性は家事、育児、介護をしなくてもよい
- その他
- わからない・無回答

**問4 今後、男性が家事、育児、介護、町内会やボランティアなどの地域活動に、積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。**

○男性が家事等に参加していくために必要なことについて、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と答えた人の割合は78.8%と最も高く、次いで「男性が家事、育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と答えた人の割合は70.6%、以下「男性による家事、育児などについて職場における上司や周囲の理解を進めること」(66.2%)「社会の中で、男性による家事、育児などについても、その評価を高めること」(57.8%)、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(57.3%)の順となっている。(上位5項目)

○25年調査と比べて見ると、「男性が家事、育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と答えた人の割合が、25年調査の60.3%に対し今回調査は70.6%と高くなっている。

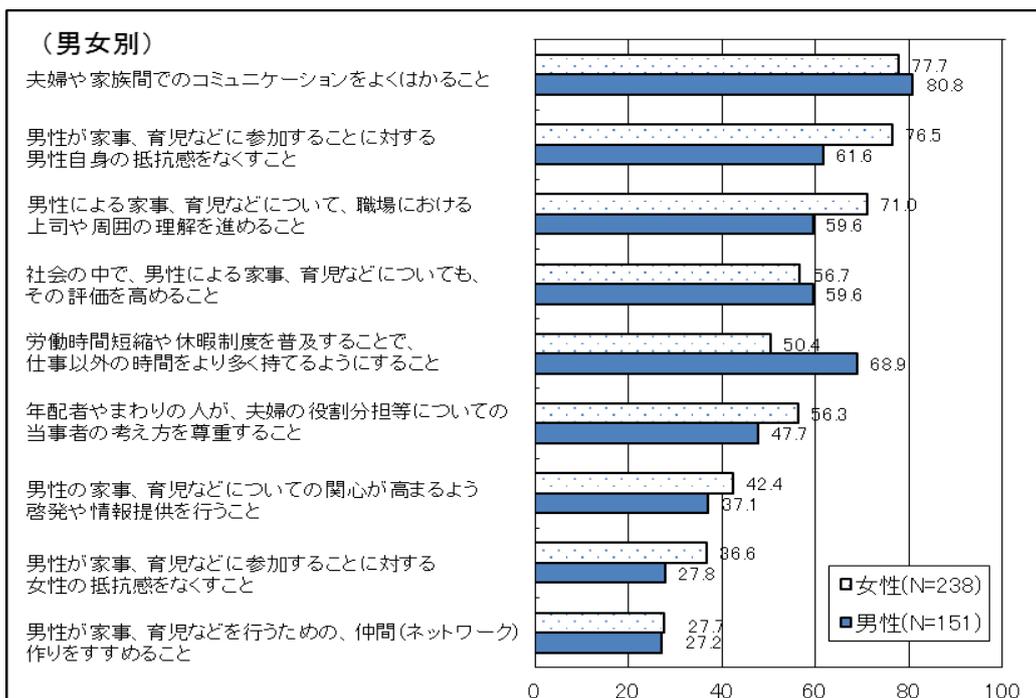
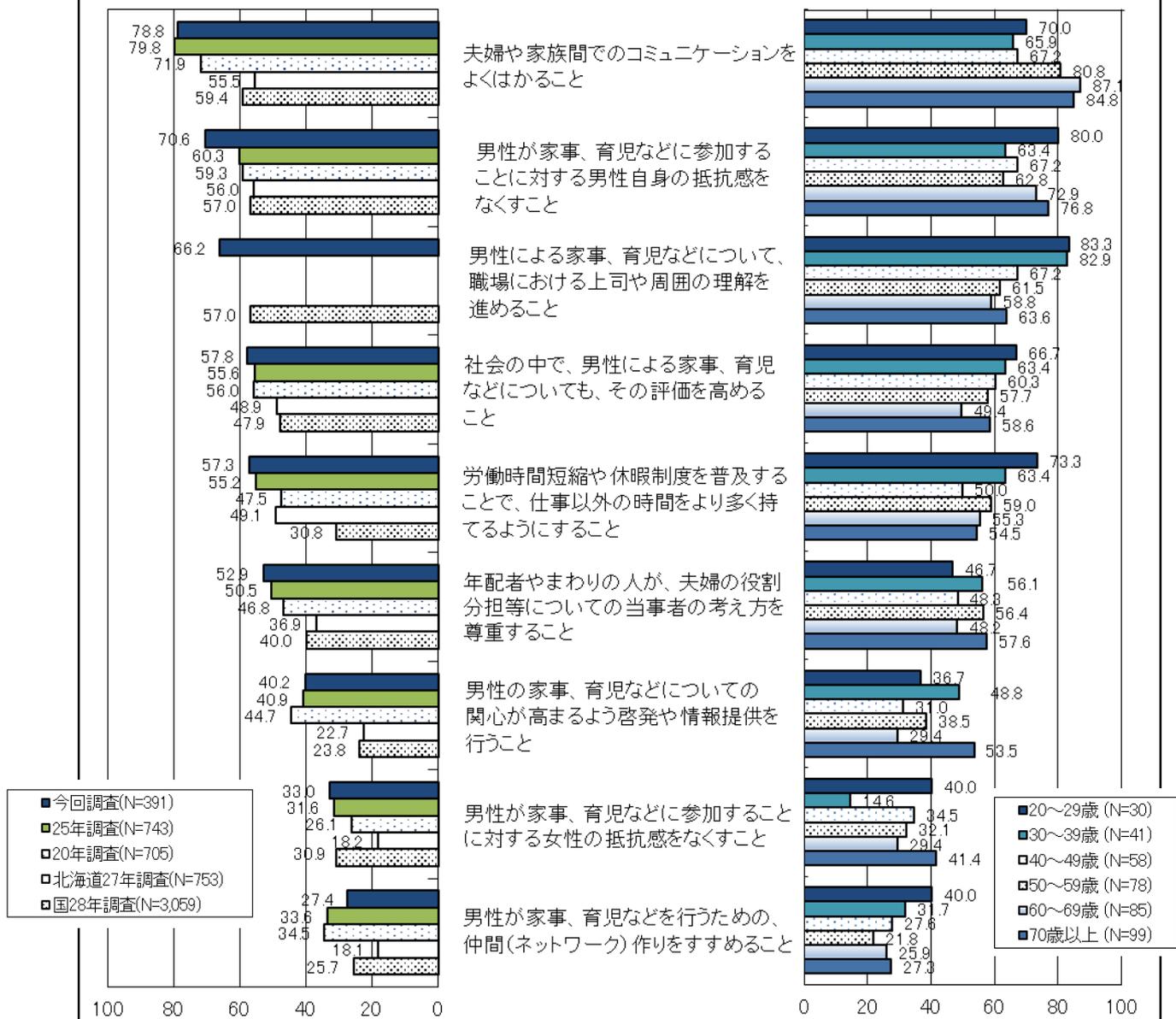
○北海道と比べて見ると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と答えた人の割合は北海道の55.5%に対し帯広市は78.8%、「男性が家事、育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と答えた人の割合は北海道の56.0%に対し帯広市は70.6%と、帯広市がいずれも高くなっている。

○国と比べて見ると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と答えた人の割合は国の59.4%に対し帯広市は78.8%、「男性による家事、育児などについて職場における上司や周囲の理解を進めること」と答えた人の割合は国の57.0%に対し帯広市は66.2%と、帯広市がいずれも高くなっている。

○年代別で見ると、「男性による家事、育児などについて職場における上司や周囲の理解を進めること」「男性が家事、育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と答えた人の割合は20歳代で、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と答えた人の割合は50~70歳代以上で、それぞれ高くなっている。

○性別で見ると、「男性が家事、育児などに参加する事に対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「男性による家事、育児などについて職場における上司や周囲の理解を進めること」と答えた人の割合は女性の方が、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」と答えた人の割合は男性の方が、それぞれ高くなっている。

図4 男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと



**問5 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についてお伺いします。まず、あなたの希望に最も近いものを次の中から、1つだけお選びください。**

○生活の中での優先度（希望）について、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と答えた人の割合は30.7%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」と答えた人の割合は20.2%、以下「家庭生活」を優先したい」と答えた人の割合は16.4%、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」（15.9%）、「地域・個人の生活」を優先したい」（5.4%）の順となっている。

○性別で見ると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」「家庭生活」を優先したい」と答えた人の割合は女性の方が、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」「仕事を優先したい」と答えた人の割合は男性の方が、それぞれ高くなっている。

○年代別で見ると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と答えた人の割合は30歳代で46.3%と高く、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」と答えた人の割合は20歳代と70歳以上で、「家庭生活」を優先したい」と答えた人の割合は30歳代で、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」と答えた人の割合は60歳代で、「仕事を優先したい」と答えた人の割合は60歳代で、それぞれ高くなっている。

**問6 それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものを次の中から、1つだけお選びください。**

○生活の中での優先度（現状）について、「仕事」を優先している」と答えた人の割合は 27.1%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先している」と答えた人の割合は 20.7%、以下「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（19.2%）、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している（13.3%）、「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している（6.4%）の順となっている。

○性別で見ると、「家庭生活」を優先している」「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」と答えた人の割合は女性の方が、「仕事」を優先している」と答えた人の割合は男性の方が、それぞれ高くなっている。

○年代別で見ると、「仕事」を優先している」と答えた人の割合は 20 歳代で 46.7%と最も高く、「家庭生活」を優先している」と答えた人の割合は 30 歳代で、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」と答えた人の割合は 50 歳代で、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」と答えた人の割合は 70 歳以上で、「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している」と答えた人の割合は 30 歳代で、それぞれ高くなっている。

○希望と現実の違いについて、希望では男女とも「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と答えた人の割合が最も高いが、現実には、男性は「仕事」を優先している」、女性は「家庭生活」を優先している」がそれぞれ最も多い結果となっている。

図5 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度(男女別)

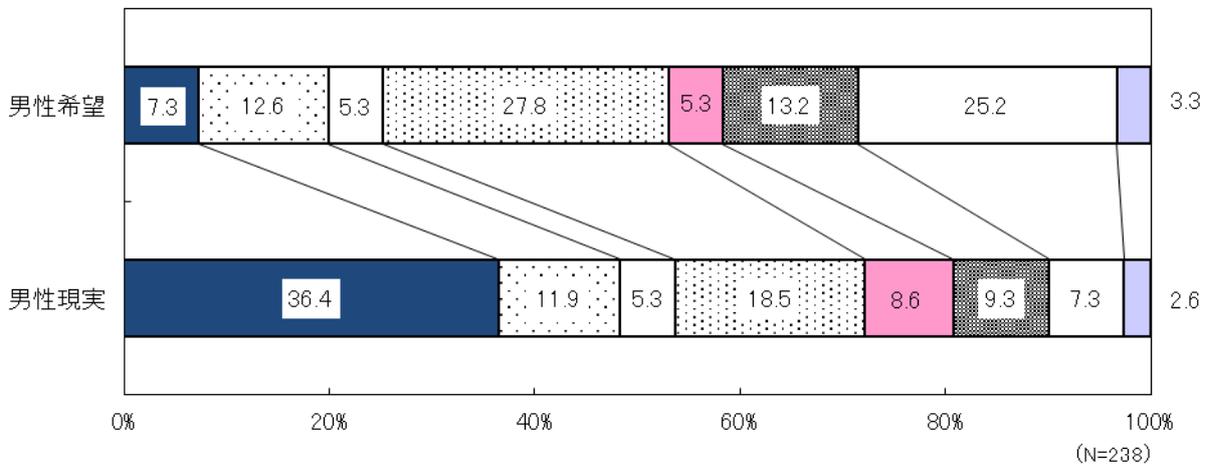
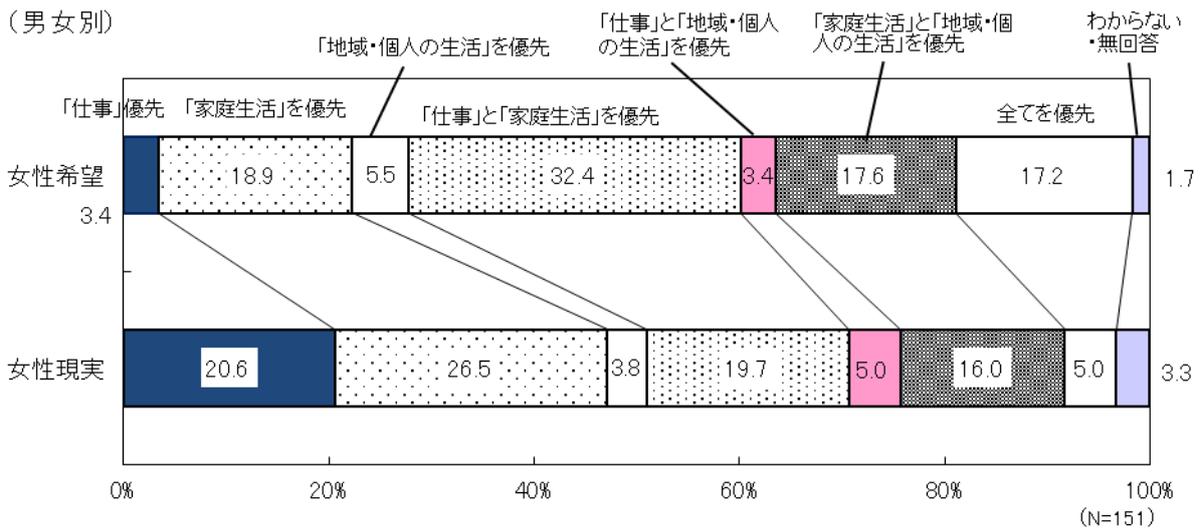
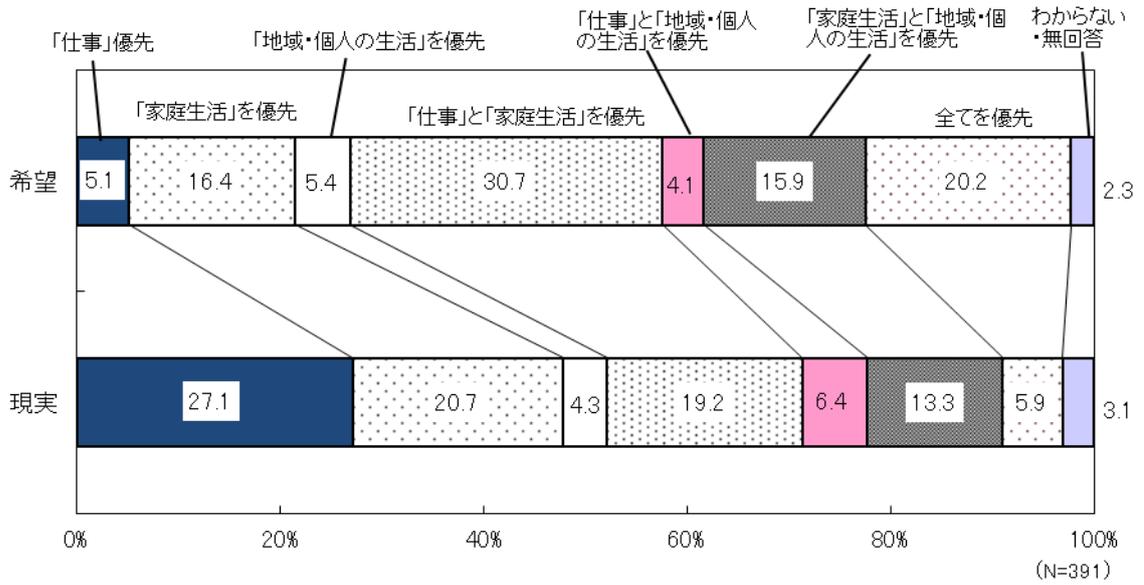
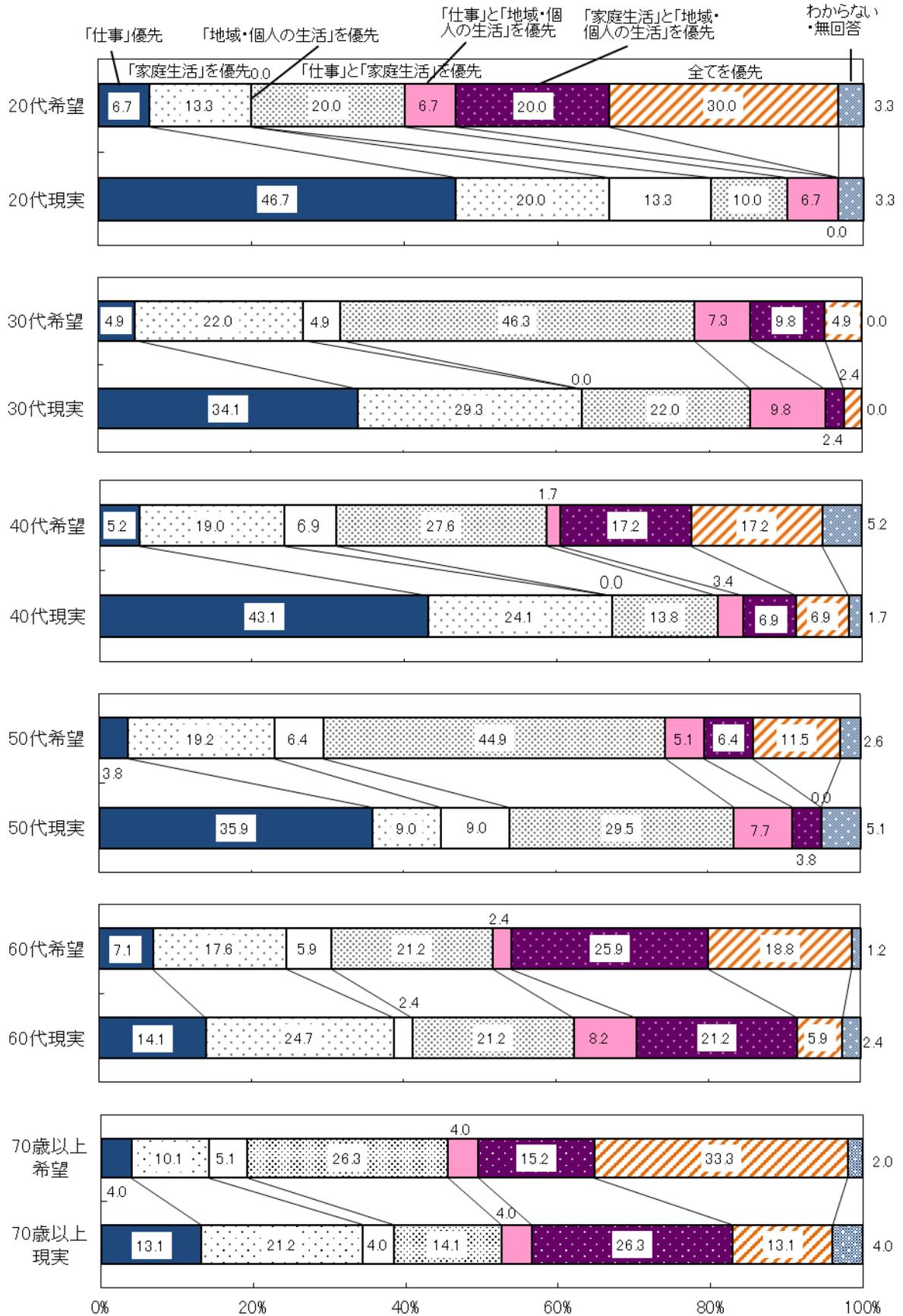


図6 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度(年齢別)

(年代別)



### 3. 職業について

問7 女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。次の中から、1つだけお選びください。

○女性が職業をもつことについて、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた人の割合は39.6%、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた人の割合は34.5%、「その他」と答えた人の割合は11.3%となっており、「本人の意思が尊重されるべき」「ケースバイケース」などの意見があった。

○25年調査と比べて見ると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた人の割合は25年調査の33.6%に対し今回調査は39.6%と高く、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた人の割合は25年調査の41.0%に対し今回調査は34.5%と低くなっている。

○国と比べて見ると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた人の割合は、国の54.2%に対し帯広市は39.6%と低く、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた人の割合は、国の26.3%に対し帯広市は34.5%と高くなっている。

○性別で見ると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた人の割合は男女ともに最も高く、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた人の割合は男性の方が高くなっている。

○年代別で見ると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた人の割合は30歳代及び60歳代が高く、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた人の割合は40歳代で低くなっている。

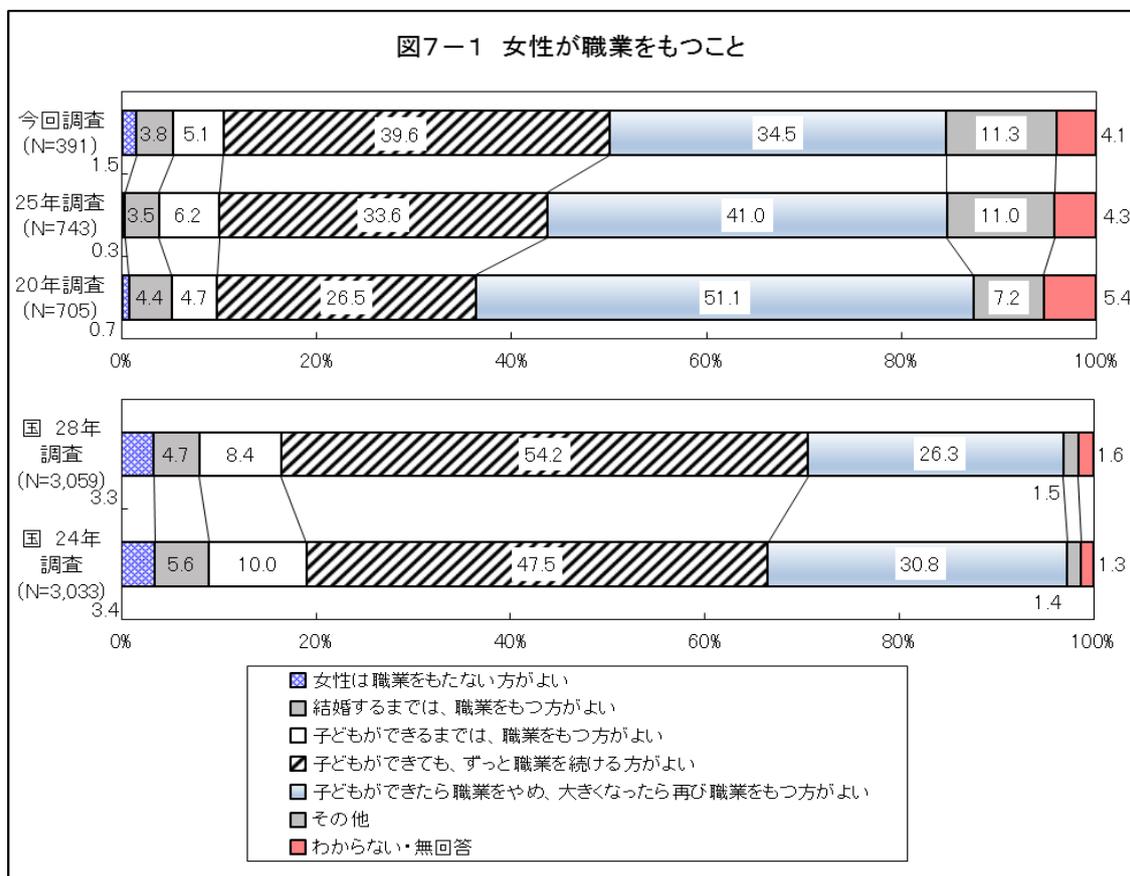
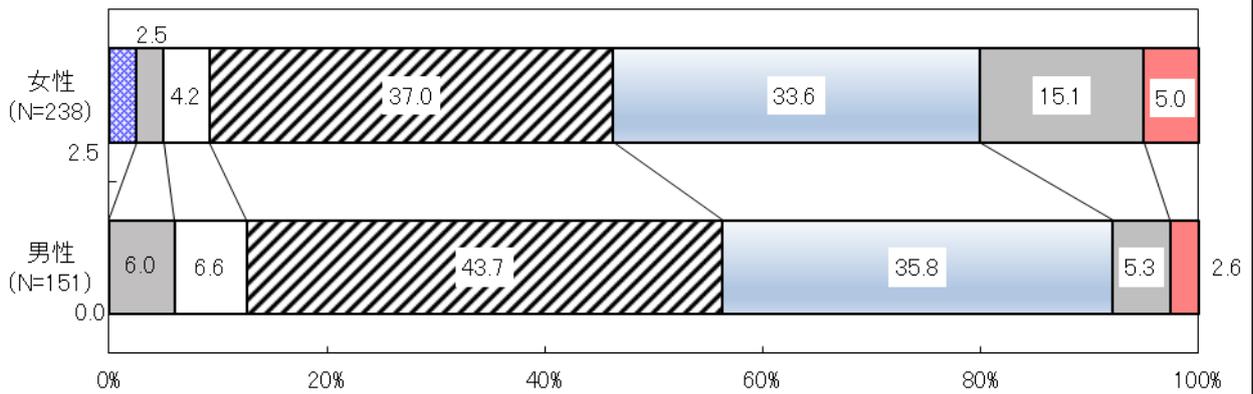
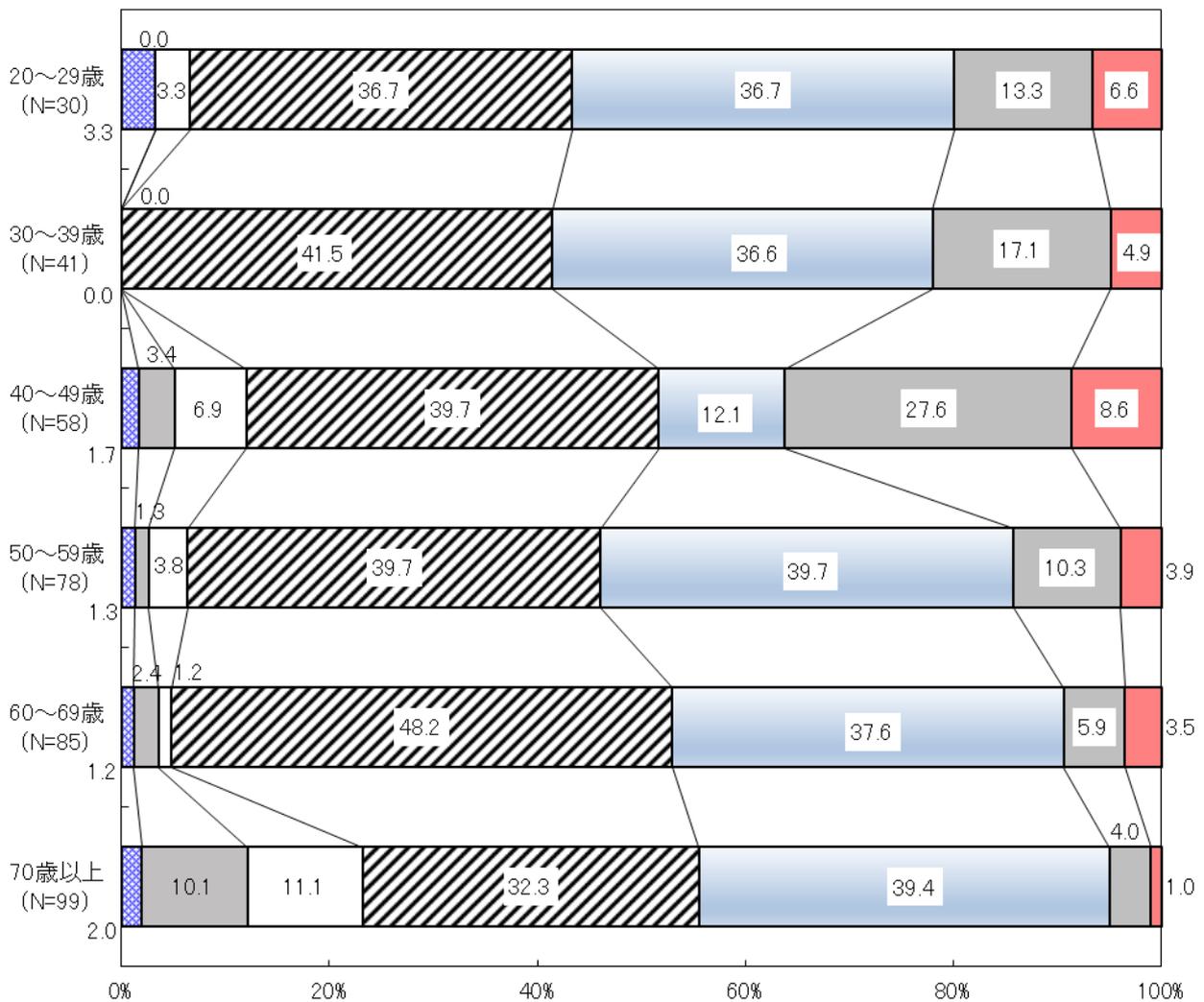


図7-2 女性が職業をもつこと

(男女別)



(年代別)



- 女性に職業をもたない方がよい
- 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- ▨ 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- その他
- わからない・無回答

**問 8-1 現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。次の中から、1つだけお選びください。**

○現在の社会での女性の働きやすさについて、「働きやすい」とする人の割合は 31.7%（「大変働きやすい状況にあると思う」1.8%+「ある程度働きやすい状況にあると思う」29.9%）、「働きやすいとは思わない」とする人の割合は 53.2%（「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」32.5%+「働きやすい状況にあるとは思わない」20.7%）となっている。

○25年調査と比べて見ると、「働きやすい」とする人の割合は25年調査の32.3%に対し今回調査は31.7%と低く、「働きやすいとは思わない」とする人の割合は25年調査の50.2%に対し今回調査は53.2%と高くなっている。

○性別で見ると、「働きやすい」とする人の割合は女性で28.6%、男性で37.1%と男性の方が高く、「働きやすいとは思わない」とする人の割合は女性で54.2%、男性で51.0%と女性の方が高くなっている。

○職業別で見ると、「働きやすい」とする人の割合は商工サービス業で46.4%と高く、「働きやすいとは思わない」とする人の割合は自由業で69.2%と高くなっている。

○図にはないが、年代別では、「働きやすい」とする人の割合は20歳代で43.3%、「働きやすいとは思わない」とする人の割合は30歳代で63.4%と、それぞれ高くなっている。

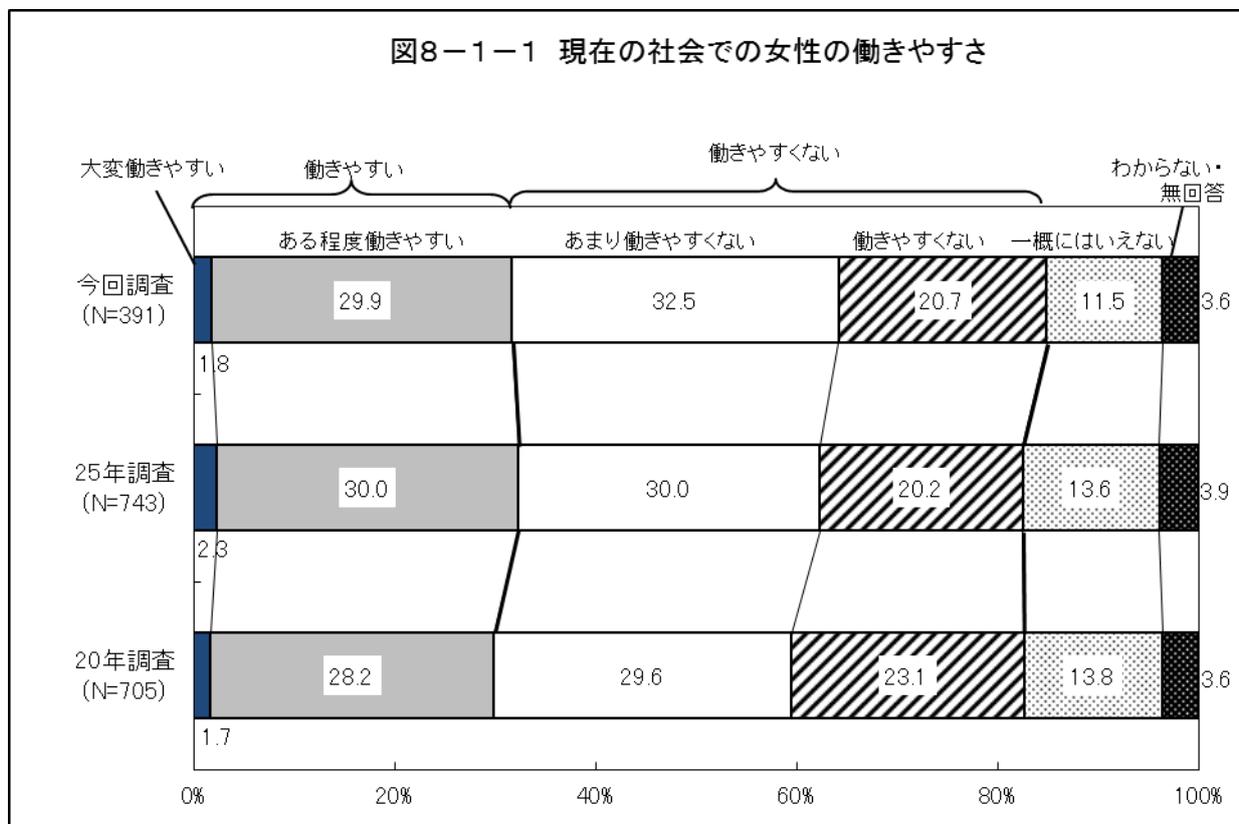
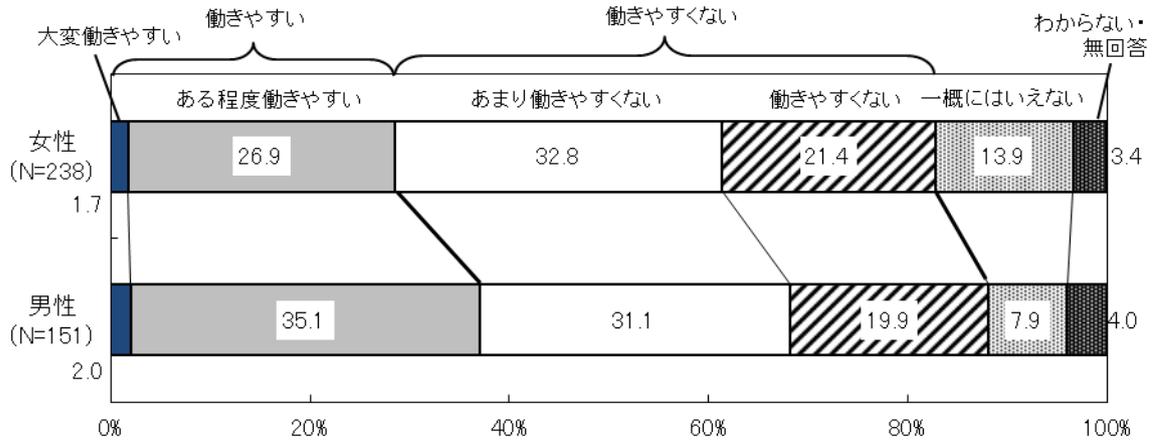
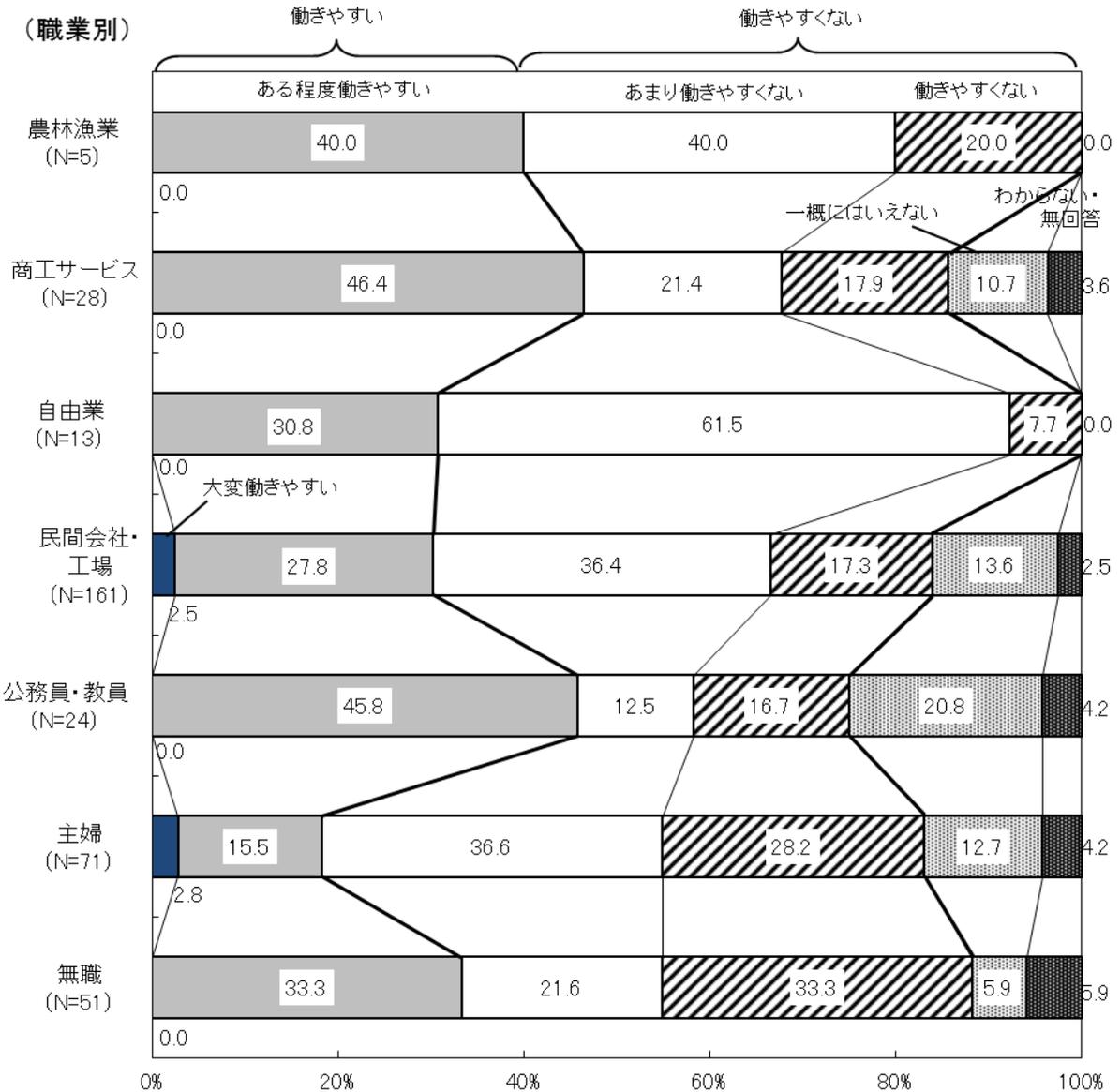


図8-1-2 現在の社会での女性の働きやすさ

(男女別)



(職業別)



問8-2 問8-1で「3 あまり働きやすい状況にあるとは思わない」または「4 働きやすい状況にあるとは思わない」とお答えの方に伺います。

それは、どのような理由からでしょうか。次の中から、いくつでもお選びください。

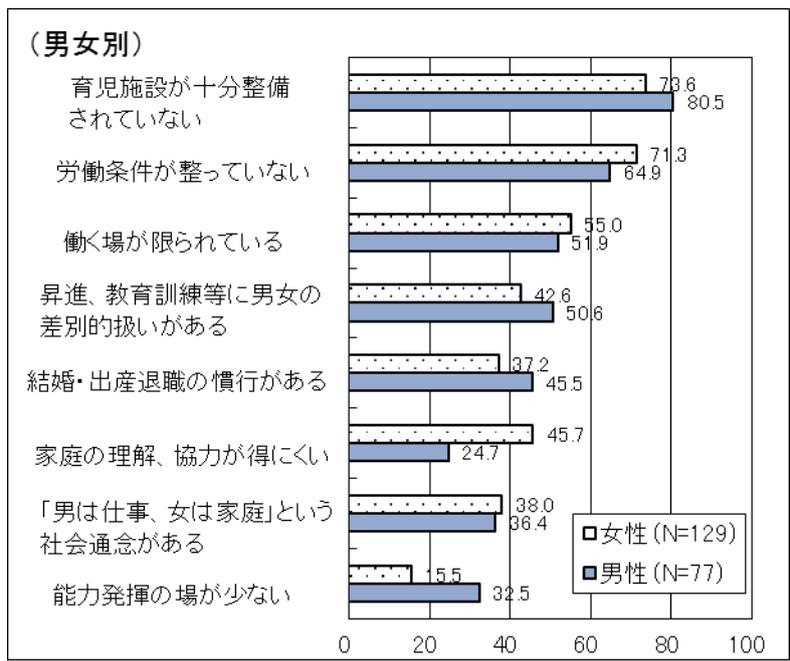
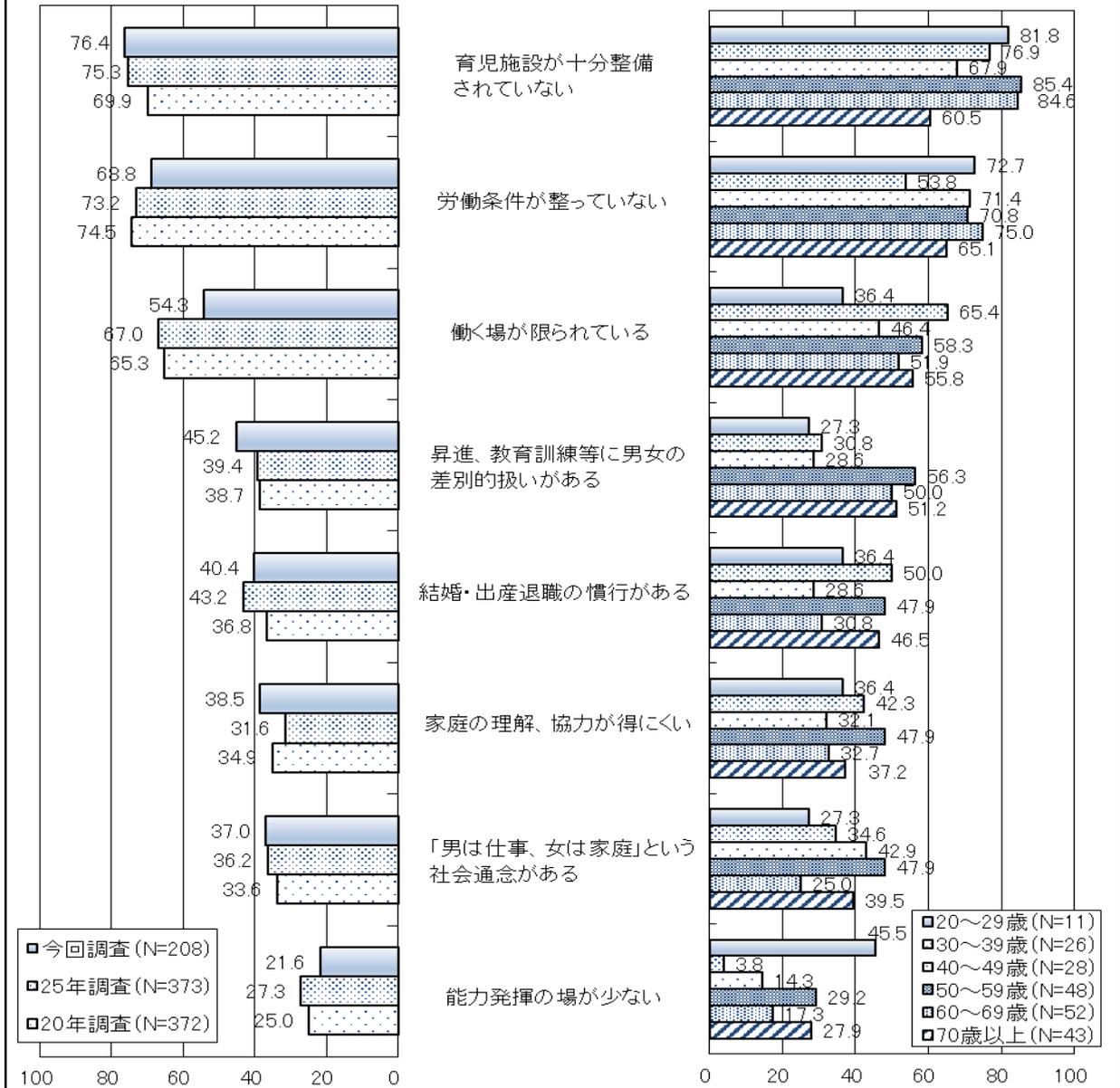
○現在の社会で女性が働きやすい状況にあるとは思わない理由について、「育児施設が十分整備されていない」と答えた人の割合は76.4%と最も高く、次いで「労働条件が整っていない」と答えた人の割合は68.8%、以下「働く場が限られている」(54.3%)、「昇進、教育訓練等に男女の差別的扱いがある」(45.2%)、「結婚・出産退職の慣行がある」(40.4%)の順となっている。(上位5項目)

○25年調査と比べて見ると、「育児施設が十分整備されていない」と答えた人の割合は25年調査の75.3%に対し今回調査は76.4%、「昇進、教育訓練等に男女の差別的扱いがある」と答えた人の割合は25年調査の39.4%に対し今回調査は45.2%と、今回調査がいずれも高くなっている。

○年代別で見ると、「育児施設が十分整備されていない」と答えた人の割合は50歳代で85.4%と高く、「労働条件が整っていない」と答えた人の割合は60歳代で、「働く場が限られている」と答えた人の割合は30歳代で、「昇進、教育訓練等に男女の差別的扱いがある」と答えた人の割合は50歳代で、「結婚・出産退職の慣行がある」と答えた人の割合は30歳代で、それぞれ高くなっている。

○性別で見ると、「労働条件が整っていない」「働く場が限られている」「家族の理解、協力が得にくい」と答えた人の割合は女性の方が、「育児施設が十分整備されていない」「昇進、教育訓練等に男女の差別的扱いがある」「結婚・出産退職の慣行がある」と答えた人の割合は男性の方が、それぞれ高くなっている。

図8-2 女性が働きやすい状況にあると思わない理由



## 4. 男女の人権について

**問9 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。次の中から、いくつでもお選びください。**

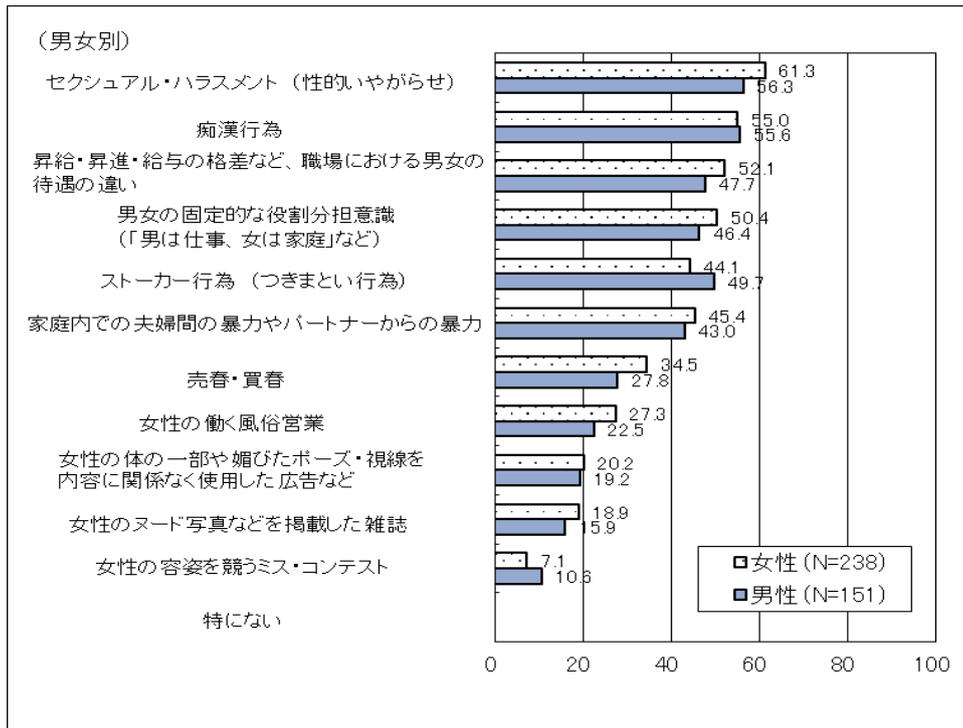
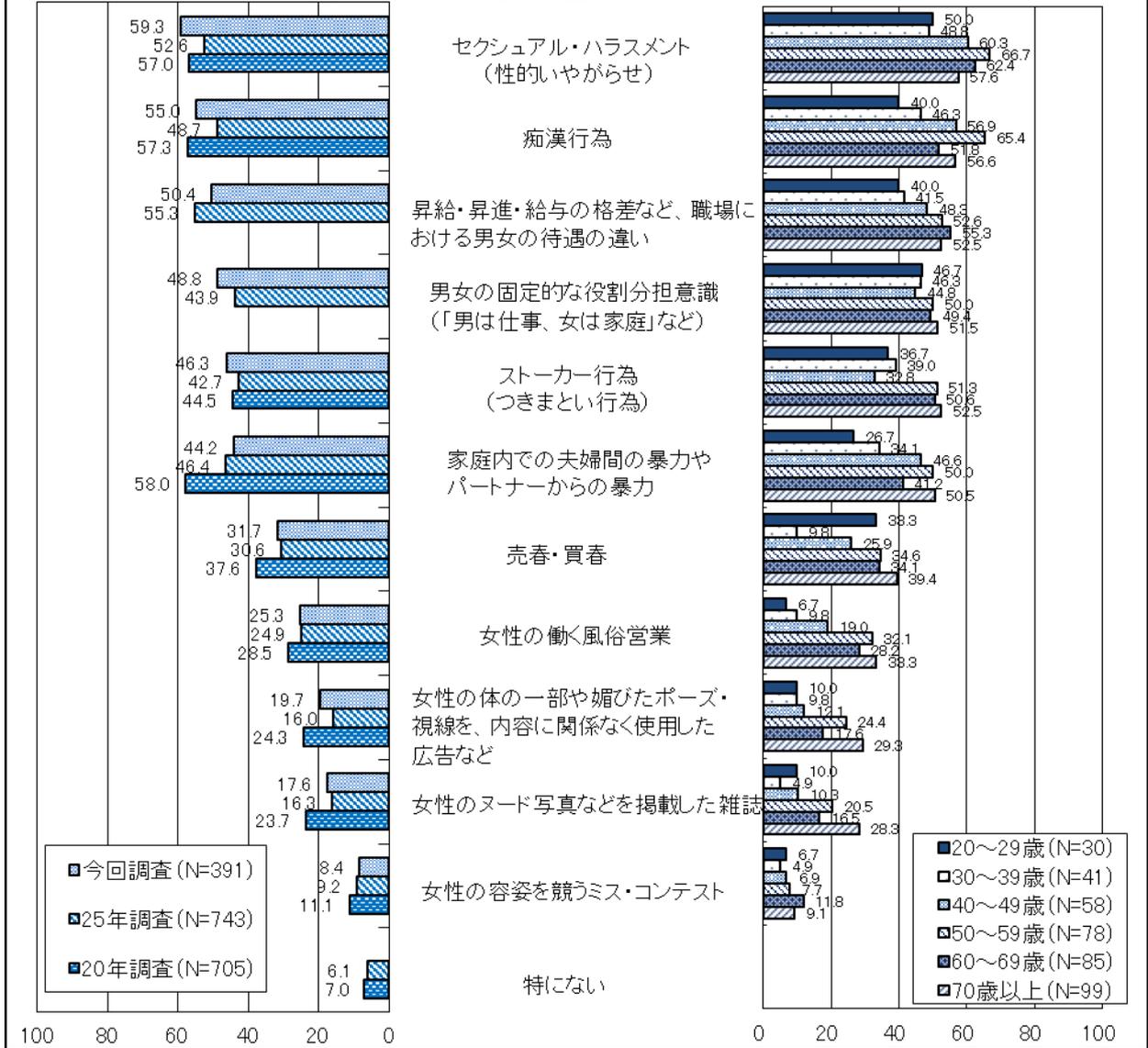
○女性の人権が尊重されていないと感じることについて、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」と答えた人の割合は59.3%と最も高く、次いで「痴漢行為」と答えた人の割合は55.0%、以下「「昇給・昇進・給与の格差など、職場における男女の待遇の違い」（50.4%）、「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」（48.8%）、「ストーカー行為（つきまとい行為）」（46.3%）の順となっている。（上位5項目）

○25年調査と比べて見ると、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」と答えた人の割合は25年調査の52.6%に対し今回調査で59.3%、「痴漢行為」と答えた人の割合は25年調査の48.7%に対し今回調査で55.0%と、今回調査がいずれも高くなっている。

○年代別で見ると、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」「痴漢行為」と答えた人の割合は50歳代で高く、「昇給・昇進・給与の格差など、職場における男女の待遇の違い」と答えた人の割合は60歳代で、「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」と答えた人の割合は70歳以上で、それぞれ高くなっている。

○性別で見ると、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」「昇給・昇進・給与の格差など、職場における男女の待遇の違い」「男女の固定的な役割分担意識」と答えた人の割合は女性の方が高くなっている。

図9 女性の人権が尊重されていないと感じること



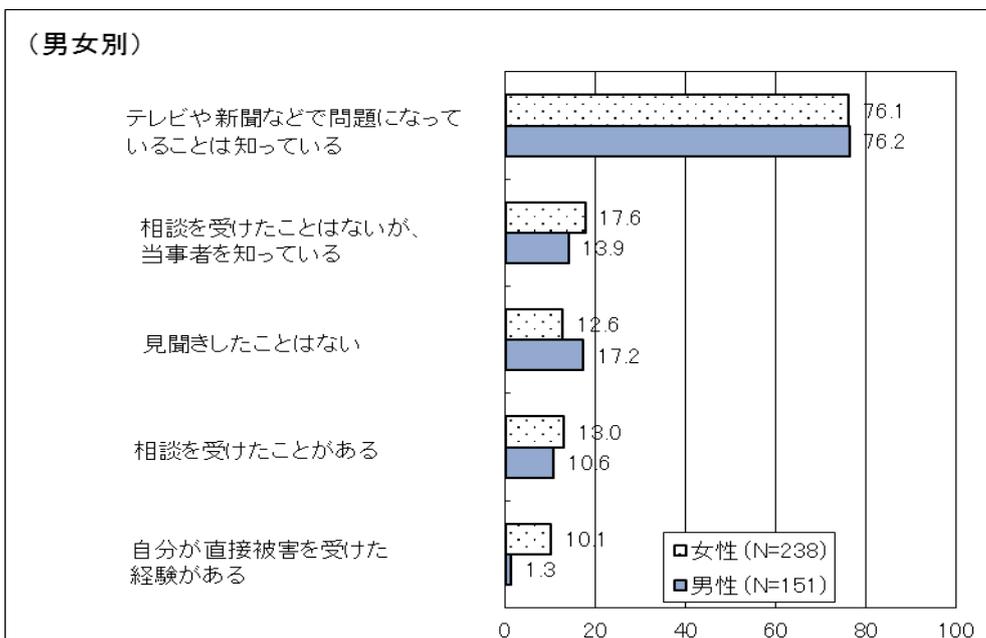
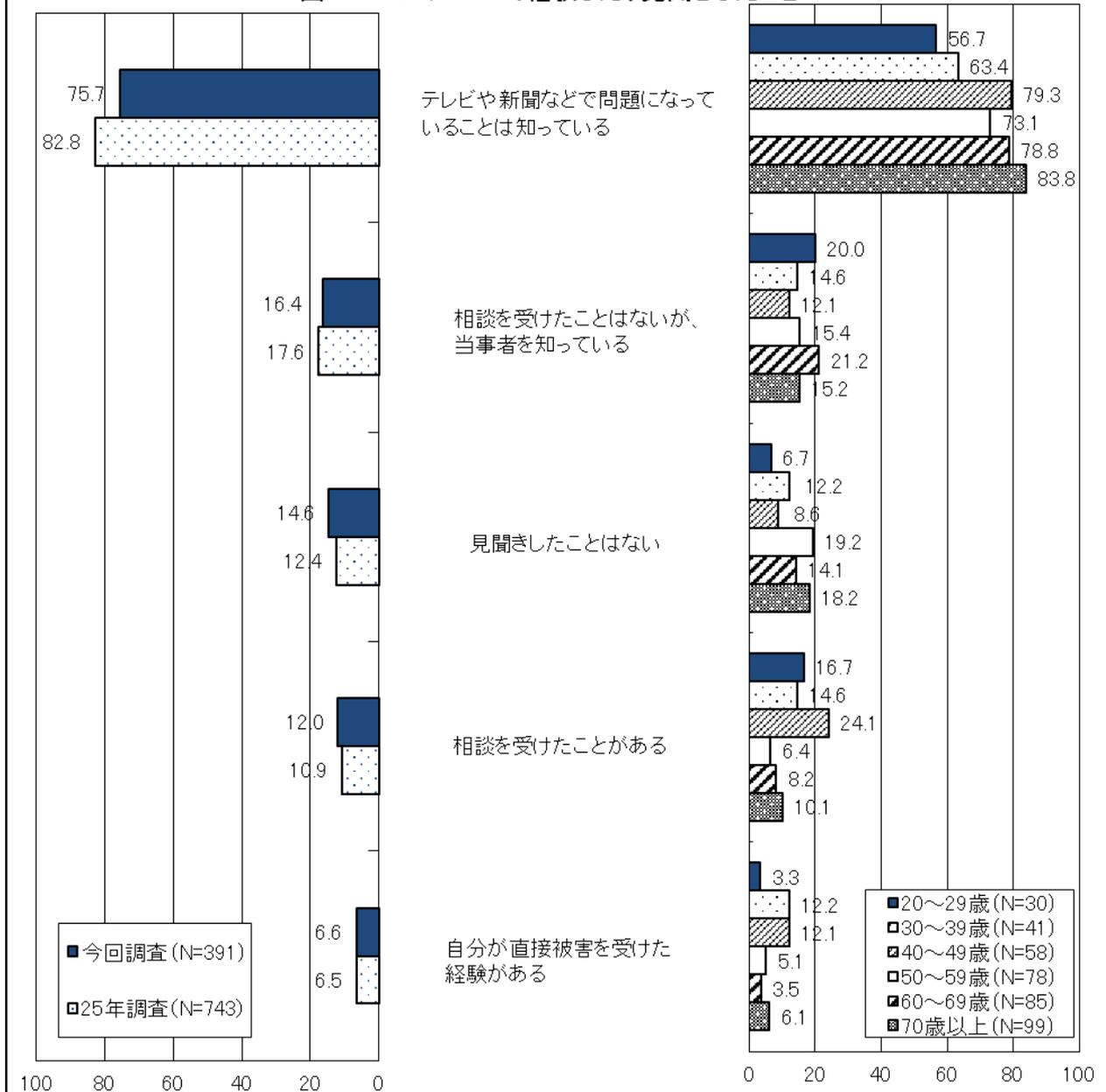
**問10-1 あなたは、配偶者や恋人、パートナーなど親密な関係にある人からの暴力、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス（DV）」について、経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。次の中から、いくつでもお選びください。**

○DVについて経験したり見聞きしたりしたことについて、「テレビや新聞などで話題になっていることは知っている」と答えた人の割合は75.7%と最も高く、次いで「相談を受けたことはないが、当事者を知っている」と答えた人の割合は16.4%、以下、「見聞きしたことはない」（14.6%）、「相談を受けたことがある」（12.0%）、「自分が直接被害を受けた経験がある」（6.6%）の順となっている。

○年代別で見ると、「テレビや新聞などで話題になっていることは知っている」と答えた人の割合は70歳以上で高く、「相談を受けたことはないが、当事者を知っている」と答えた人の割合は20歳代及び60歳代で、「見聞きしたことはない」と答えた人の割合は50歳代及び70歳以上で、「相談を受けたことがある」と答えた人の割合は40歳代で、「自分が直接被害を受けた経験がある」と答えた人の割合は30歳代及び40歳代で、それぞれ高くなっている。

○性別で見ると、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」と答えた人の割合は男女ともに高く、「自分が直接被害を受けた経験がある」と答えた人の割合は女性で10.1%、男性で1.3%と女性の方が高くなっている。

図10-1 DVについて経験したり見聞きしたこと



**問10-2 問10-1で「1 自分が直接被害を受けた経験がある」とお答えの方に伺います。あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）について、どこかに相談しましたか。次の中から、いくつでもお選びください。**

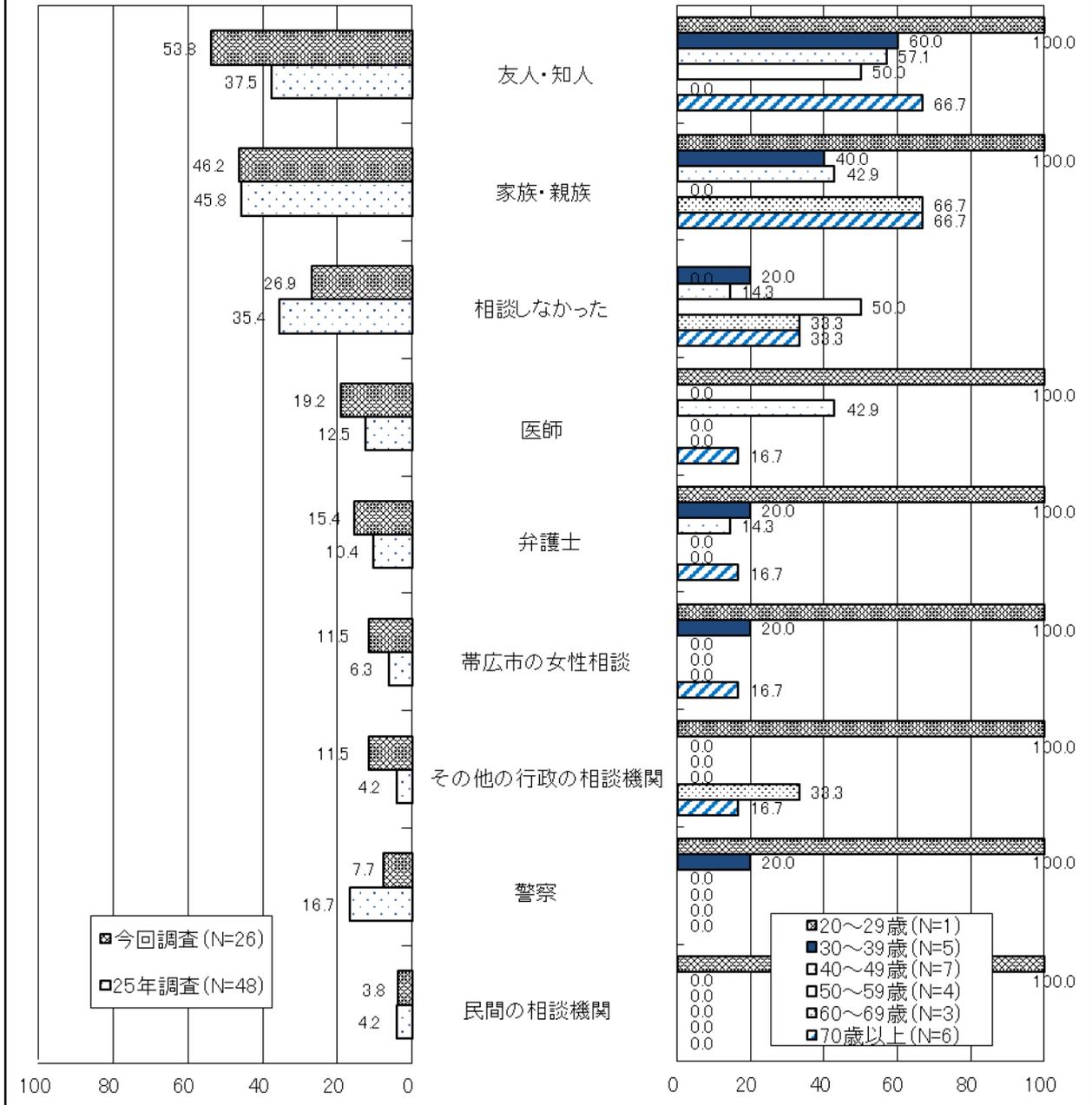
○被害を受けた経験がある方のDVの相談先について、「友人・知人」と答えた人の割合は53.8%と最も高く、次いで「家族・親族」と答えた人の割合は46.2%、以下「相談しなかった」(26.9%)、「医師」(19.2%)「弁護士」(15.4%)の順となっている。(上位5項目)

○25年調査と比べて見ると、「友人・知人」と答えた人の割合は25年調査の37.5%に対し今回調査で53.8%と高く、「相談しなかった」と答えた人の割合は25年調査の35.4%に対し、今回調査で26.9%と低くなっている。

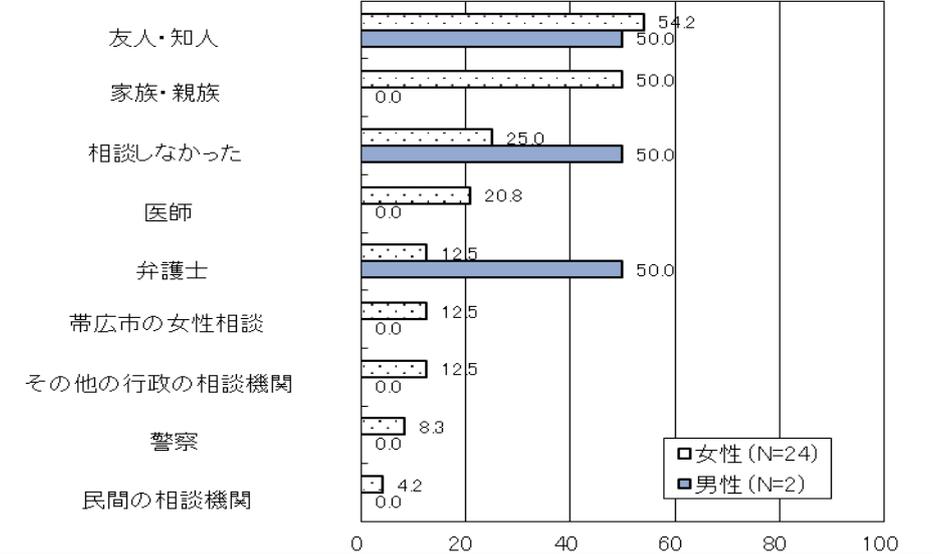
○年代別で見ると、「友人・知人」と答えた人の割合は20歳代及び70歳以上で高く、「家族・親族」と答えた人の割合は20歳代及び60～70歳以上で、「医師」と答えた人の割合は20歳代及び40歳代で、「相談しなかった」と答えた人の割合は50歳代で、それぞれ高くなっている。

○性別で見ると、「友人・知人」「家族・親族」「医師」と答えた人の割合は女性の方が高くなっている。

図10-2 被害を受けた人のDVについての相談先



(男女別)



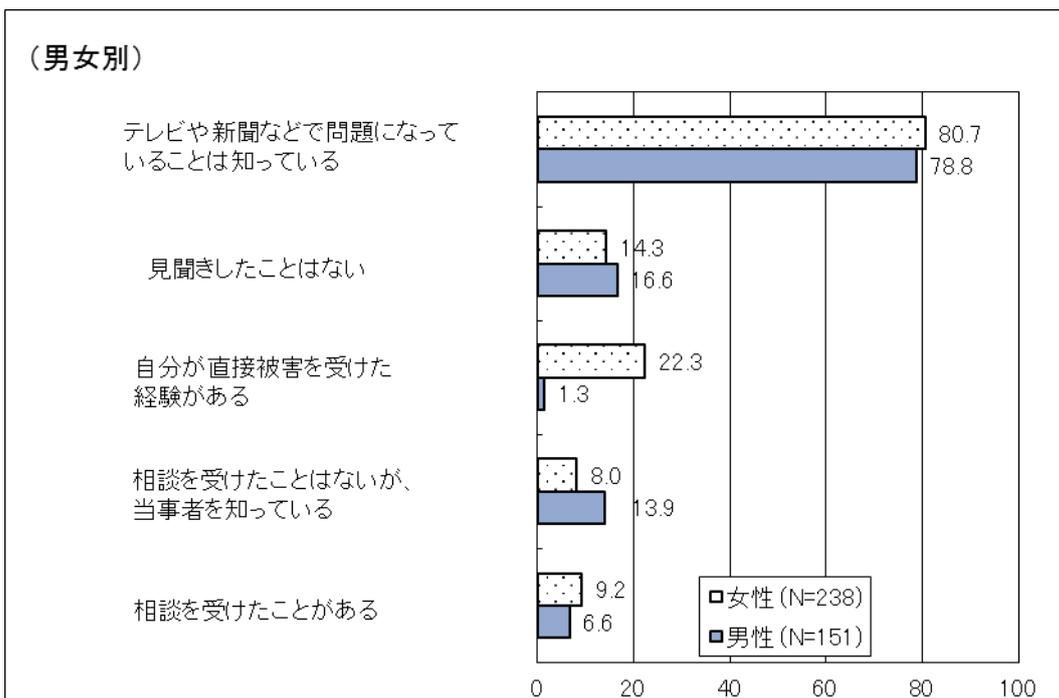
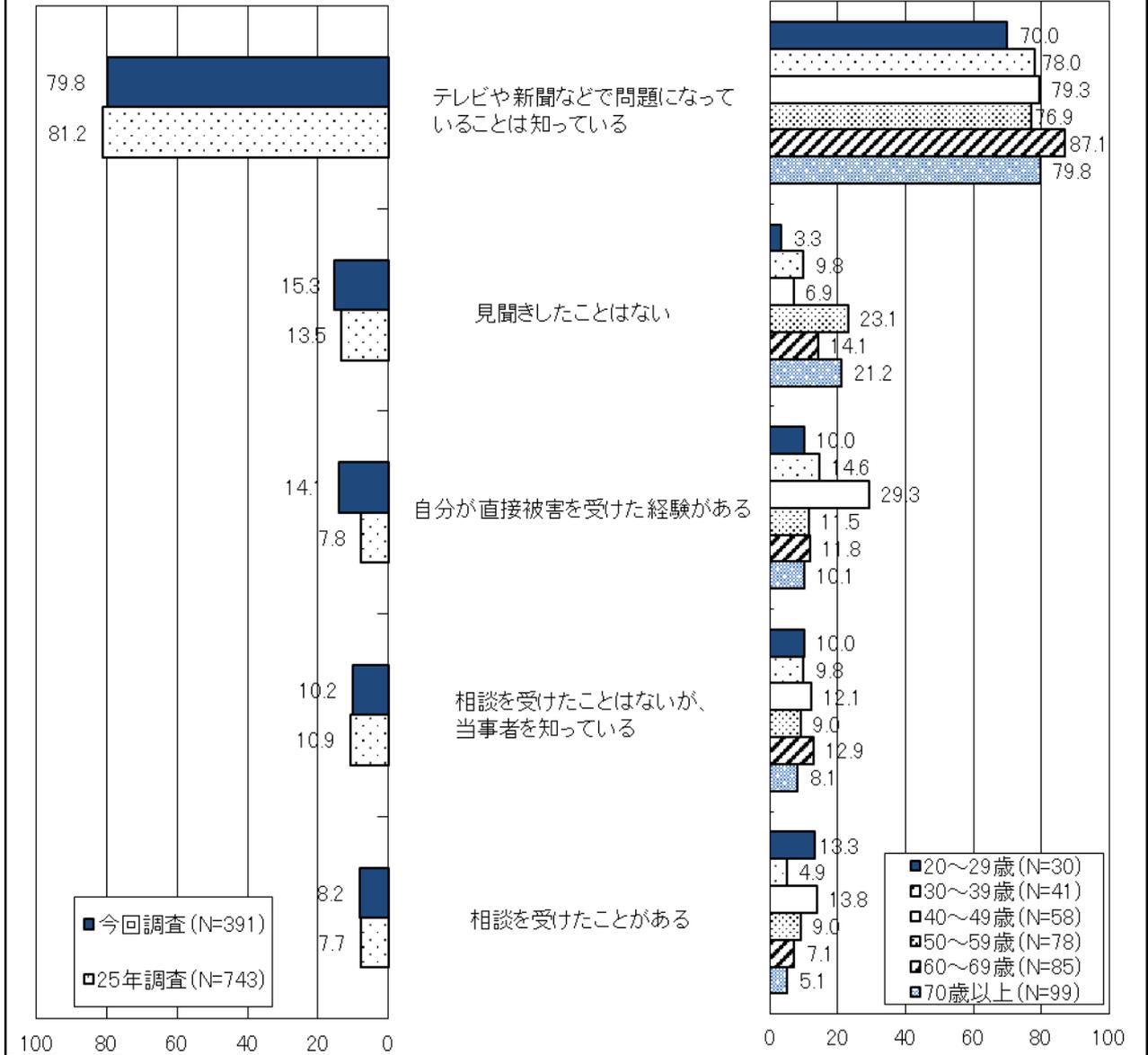
**問11 あなたは、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」について、経験したり、見聞きしたことがありますか。次の中から、いくつでもお選びください。**

○セクシュアル・ハラスメントについて経験したり見聞きしたりしたことについて、「テレビや新聞などで話題になっていることは知っている」と答えた人の割合は79.8%と最も高く、次いで「見聞きしたことはない」と答えた人の割合は15.3%、以下「自分が直接被害を受けた経験がある」（14.1%）、「相談を受けたことはないが、当事者を知っている」（10.2%）、「相談を受けたことがある」（8.2%）の順となっている。

○年代別で見ると、「自分が直接被害を受けた経験がある」と答えた人の割合は40歳代で高く、「相談を受けたことがある」と答えた人の割合は20歳代及び40歳代で高くなっている。

○性別で見ると、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」と答えた人の割合は男女ともに高く、「自分が直接被害を受けた経験がある」と答えた人の割合は女性で22.3%、男性で1.3%と女性の方が高くなっている。

図11 セクハラについて経験したり見聞きしたこと



**問 1 2 性犯罪や配偶者からの暴力など、女性に対する暴力をなくすために、どのようにしたらよいと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。**

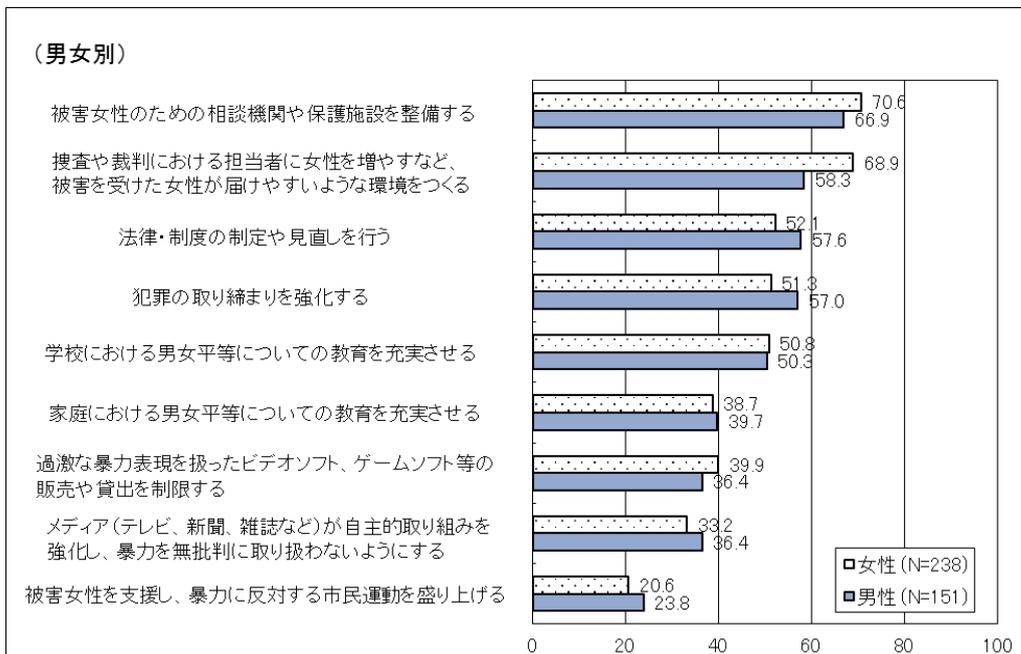
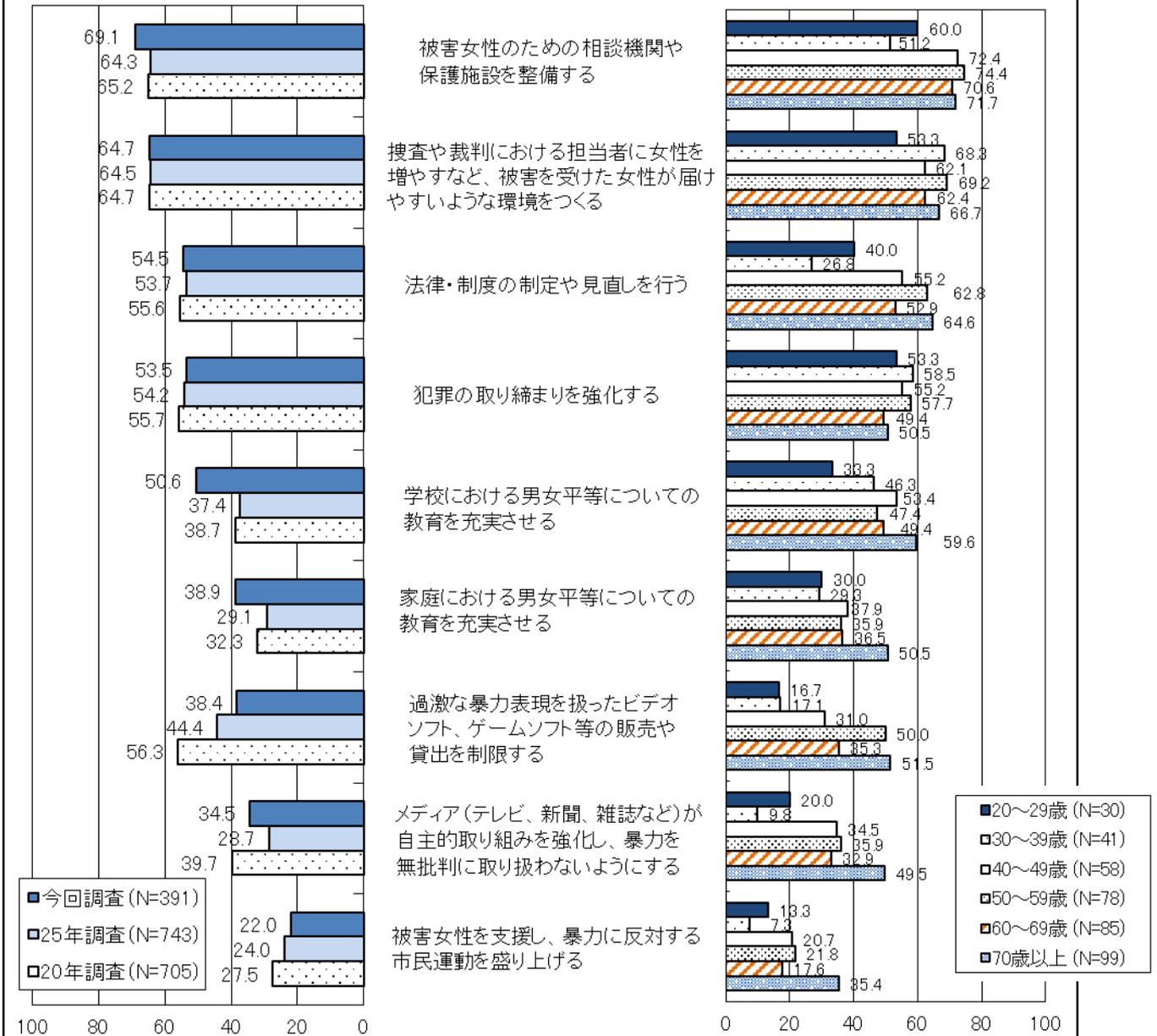
○女性に対する暴力をなくすために、どのようにしたらよいかについて、「被害女性のための相談機関や保護施設を整備する」と答えた人の割合は 69.1%、「捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害を受けた女性が届けやすいような環境をつくる」と答えた人の割合は 64.7%と高く、以下、「法律・制度の制定や見直しを行う」(54.5%)、「犯罪の取り締まりを強化する」(53.5%)、「学校における男女平等についての教育を充実させる」(50.6%)の順となっている。(上位 5 項目)

○25 年調査と比べて見ると、「学校における男女平等についての教育を充実させる」と答えた人の割合は 25 年調査の 37.4%に対し今回調査で 50.6%、「家庭における男女平等についての教育を充実させる」と答えた人の割合は 25 年調査の 29.1%に対し今回調査で 38.9%と、今回調査がいずれも高くなっている。

○年代別で見ると、「被害女性のための相談機関や保護施設を整備する」「捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害を受けた女性が届けやすいような環境をつくる」と答えた人の割合は 50 歳代で高く、「法律・制度の制定や見直しを行う」と答えた人の割合は 70 歳以上で、「犯罪の取り締まりを強化する」と答えた人の割合は 30 歳代で、「学校における男女平等についての教育を充実させる」と答えた人の割合は 70 歳以上で、それぞれ高くなっている。

○性別で見ると、「被害女性のための相談機関や保護施設を整備する」「捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害を受けた女性が届けやすいような環境をつくる」と答えた人の割合は女性の方が、「法律・制度の制定や見直しを行う」「犯罪の取り締まりを強化する」と答えた人の割合は男性の方が、それぞれ高くなっている。

図12 女性に対する暴力をなくすためにすること



## 5. 男女共同参画について

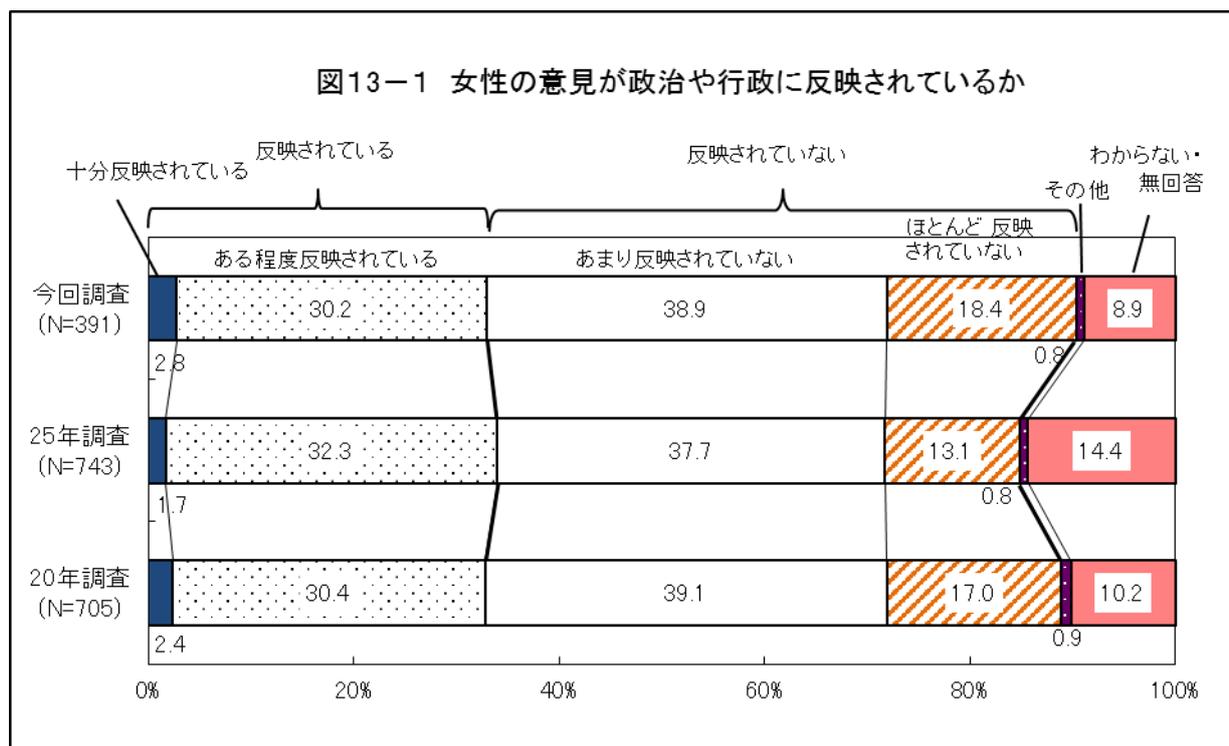
問13 あなたは、女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思いますか。次の中から、1つだけお選びください。

○女性の意見が政治や行政にどの程度反映されているかについて、「反映されている」とする人の割合は33.0%（「十分反映されている」2.8%+「ある程度反映されている」30.2%）、「反映されていない」とする人の割合は57.3%（「あまり反映されていない」38.9%+「ほとんど反映されていない」18.4%）となっている。

○25年調査と比べて見ると、「反映されている」とする人の割合は25年調査の34.0%に対し今回調査は33.0%と低く、「反映されていない」とする人の割合は25年調査の50.8%に対し今回調査は57.3%と高くなっている。

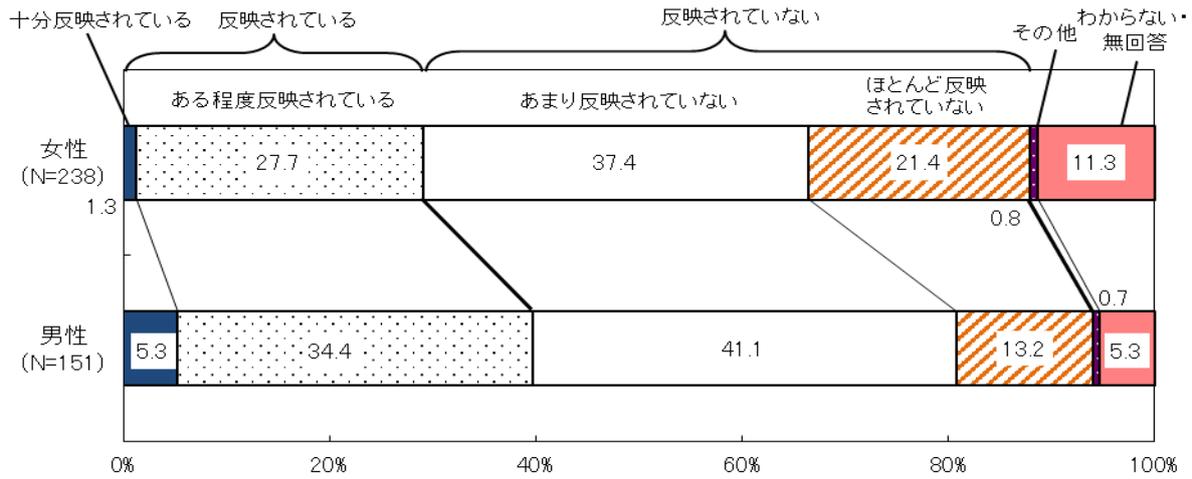
○性別で見ると、「反映されている」とする人の割合は女性で29.0%、男性で39.7%と男性の方が高く、「反映されていない」とする人の割合は女性で58.8%、男性で54.3%と女性の方が高くなっている。

○年代別で見ると、「反映されている」とする人の割合は70歳以上で41.4%、「反映されていない」とする人の割合は50歳代で68.0%と、それぞれ高くなっている。

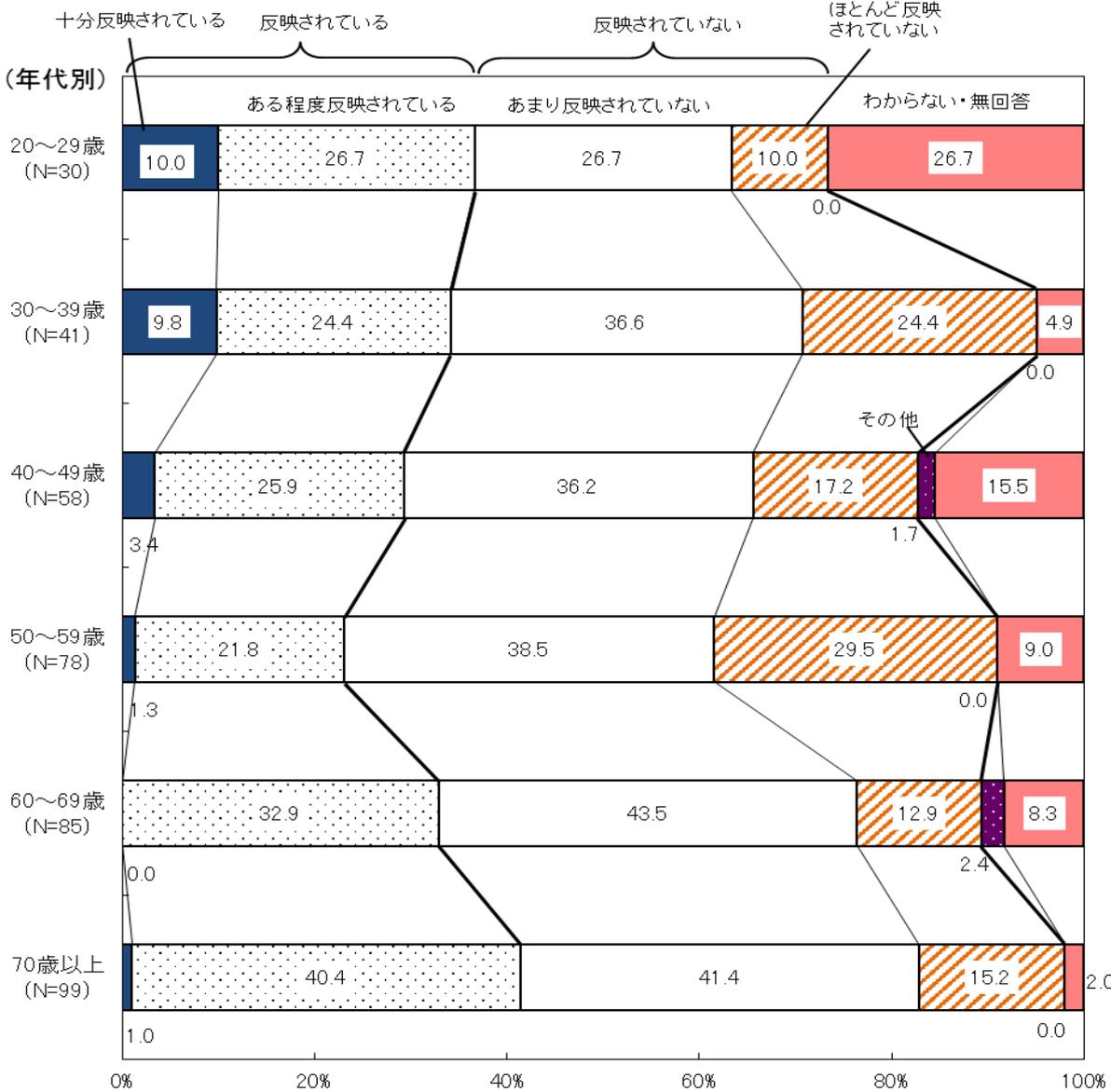


(男女別)

図13-2 女性の意見が政治や行政に反映されているか



(年代別)



**問14 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。1～6の中から、あなたの気持ちに最も近いものを1つだけお選びください。**

(ア) 家庭生活中、「男性の方が優遇されている」とする人の割合は 52.1%（「男性の方が非常に優遇されている」7.9%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」44.2%）、「平等」と答えた人の割合は 29.4%、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は 9.2%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」7.7%+「女性の方が非常に優遇されている」1.5%）となっている。

(イ) 職場で、「男性の方が優遇されている」とする人の割合は 65.7%、「平等」と答えた人の割合は 20.7%、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は 6.9%となっている。

(ウ) 学校教育の場で、「男性の方が優遇されている」とする人の割合は 16.9%、「平等」と答えた人の割合は 58.8%、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は 4.1%となっている。

(エ) 政治の場で、「男性の方が優遇されている」とする人の割合は 75.5%、「平等」と答えた人の割合は 10.2%、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は 1.5%となっている。

(オ) 法律や制度の上で、「男性の方が優遇されている」とする人の割合は 49.6%、「平等」と答えた人の割合は 24.8%、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は 6.9%となっている。

(カ) 社会通念・慣習・しきたりなどで、「男性の方が優遇されている」とする人の割合は 78.5%、「平等」と答えた人の割合は 7.4%、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は 2.3%となっている。

(キ) 社会全体で、「男性の方が優遇されている」とする人の割合は 73.6%、「平等」と答えた人の割合は 9.2%、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は 5.6%となっている。25年調査と比べて見ると、「男性の方が優遇されている」とする人の割合は 25年調査の 70.8%に対し今回調査は 73.6%と高く、「平等」と答えた人の割合は 25年調査の 13.5%に対し今回調査は 9.2%と低く、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は 25年調査の 3.4%に対し今回調査は 5.6%と高くなっている。

また、国と比べてみると、「平等」と答えた人の割合は国の 21.1%に対し、帯広市は 9.2%と低くなっている。

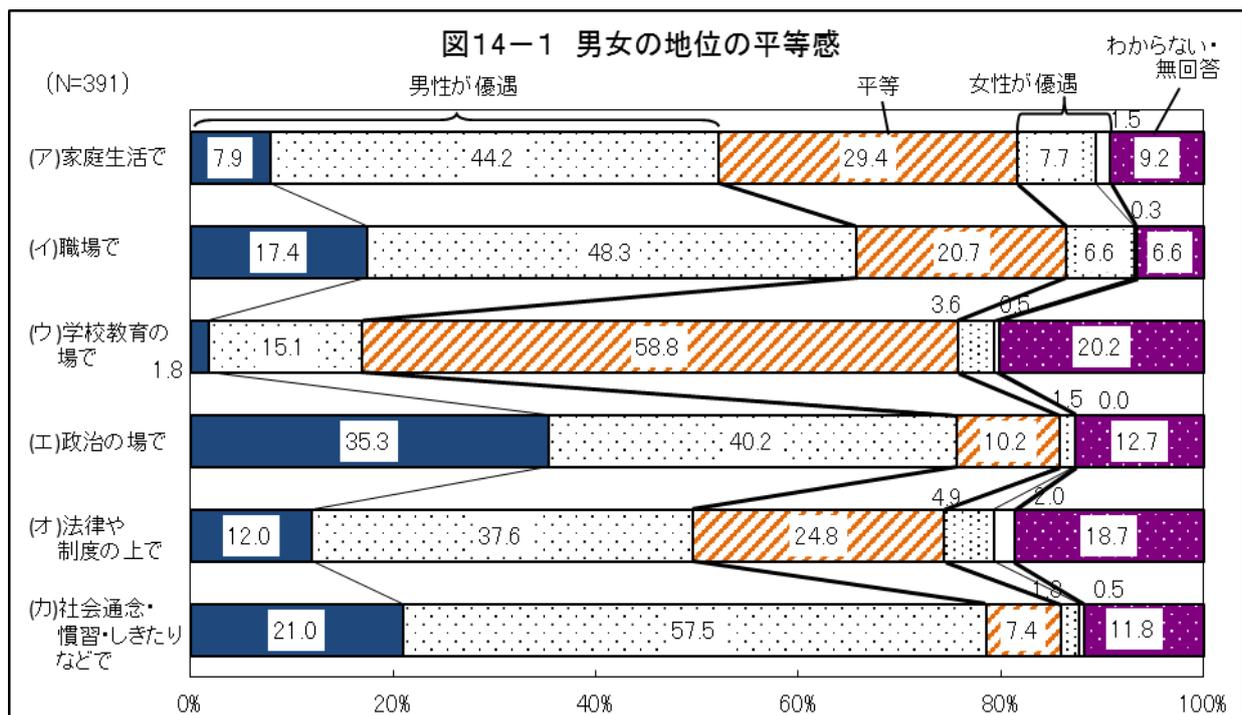
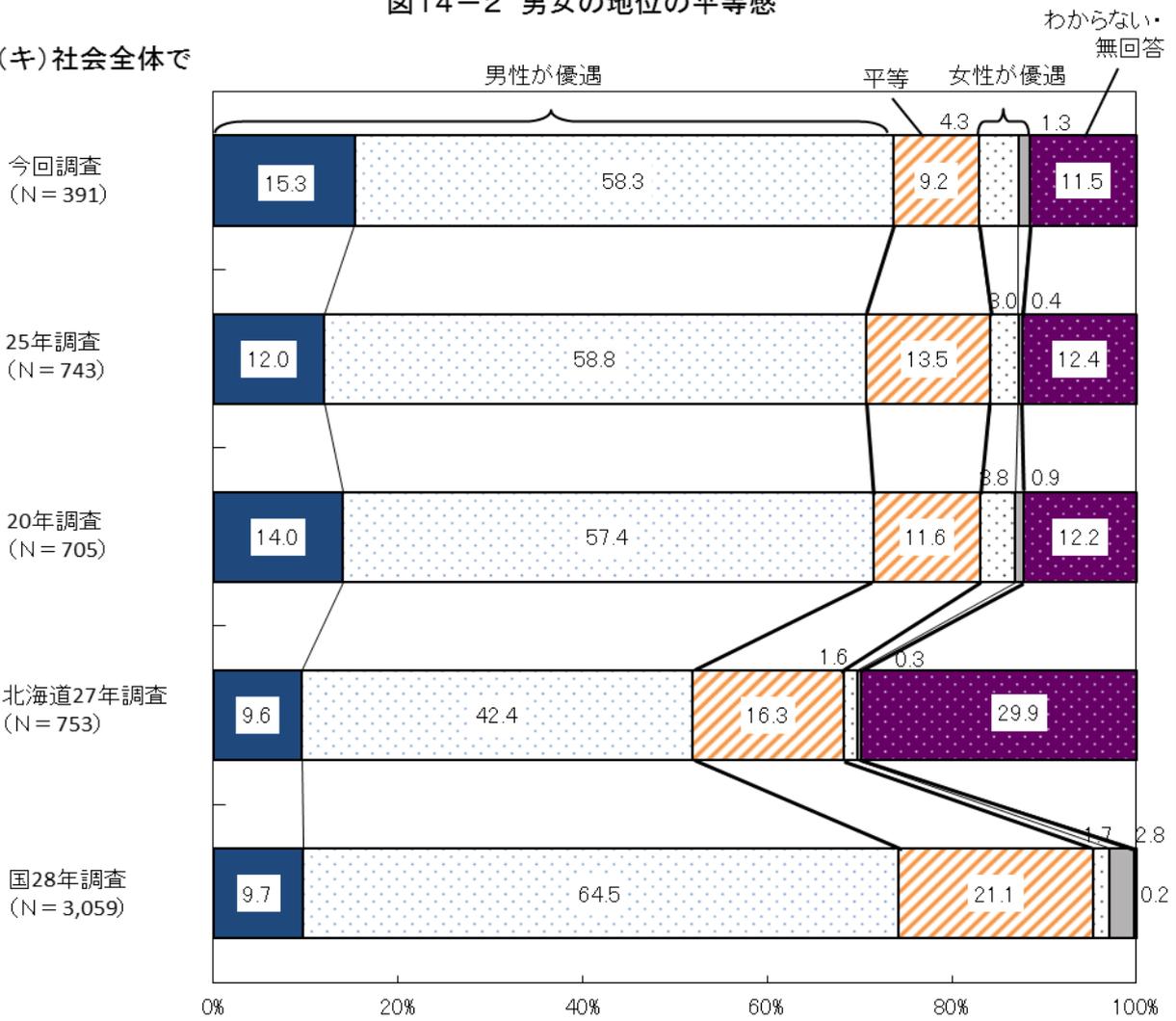
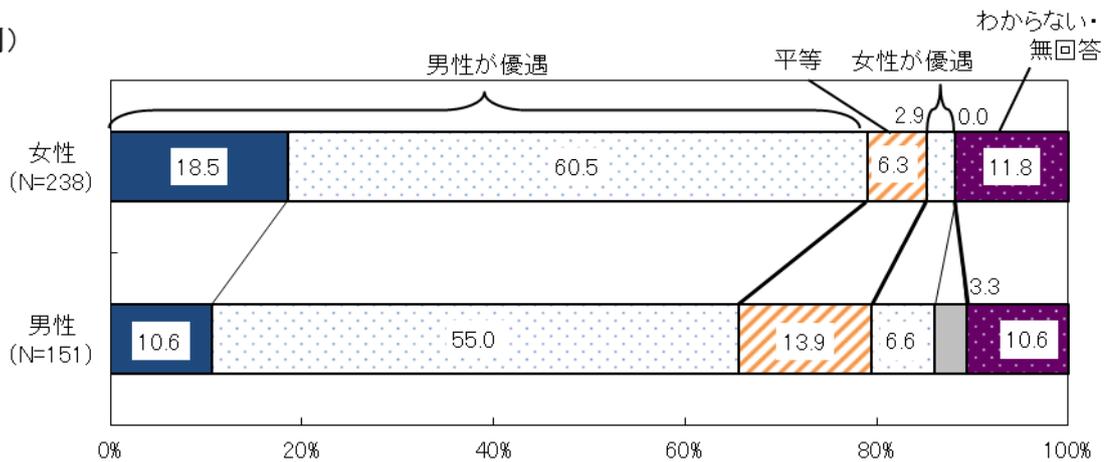


図14-2 男女の地位の平等感

(キ) 社会全体で



(男女別)



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない・無回答

**問15 問14でお聞きした分野において、女性のリーダーを増やすときに障害となるものは、何だと思えますか。次の中から、いくつでもお選びください。**

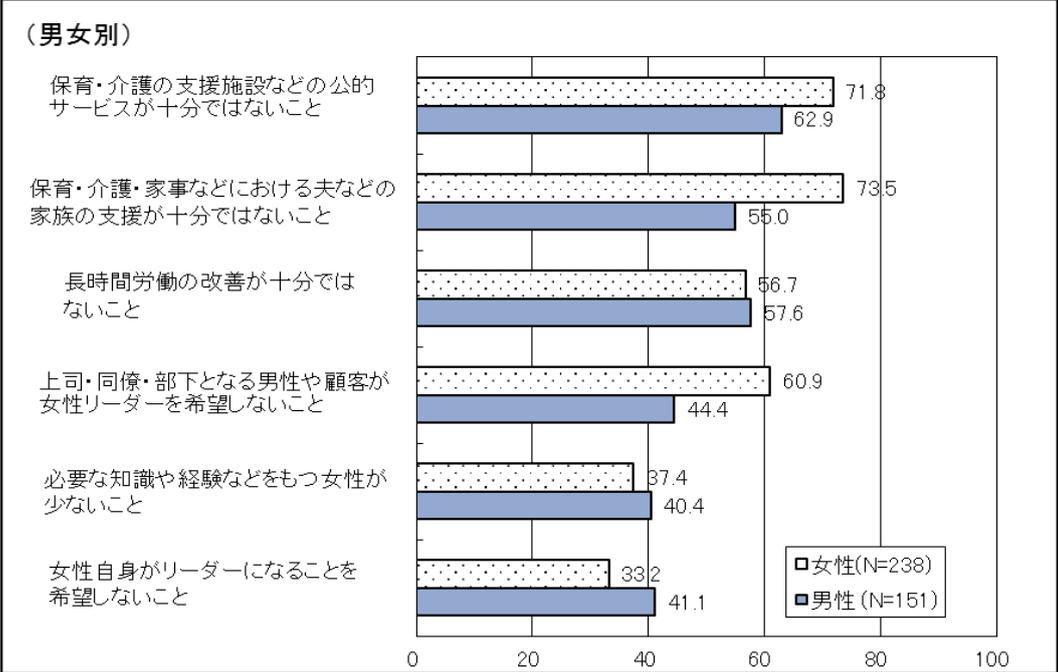
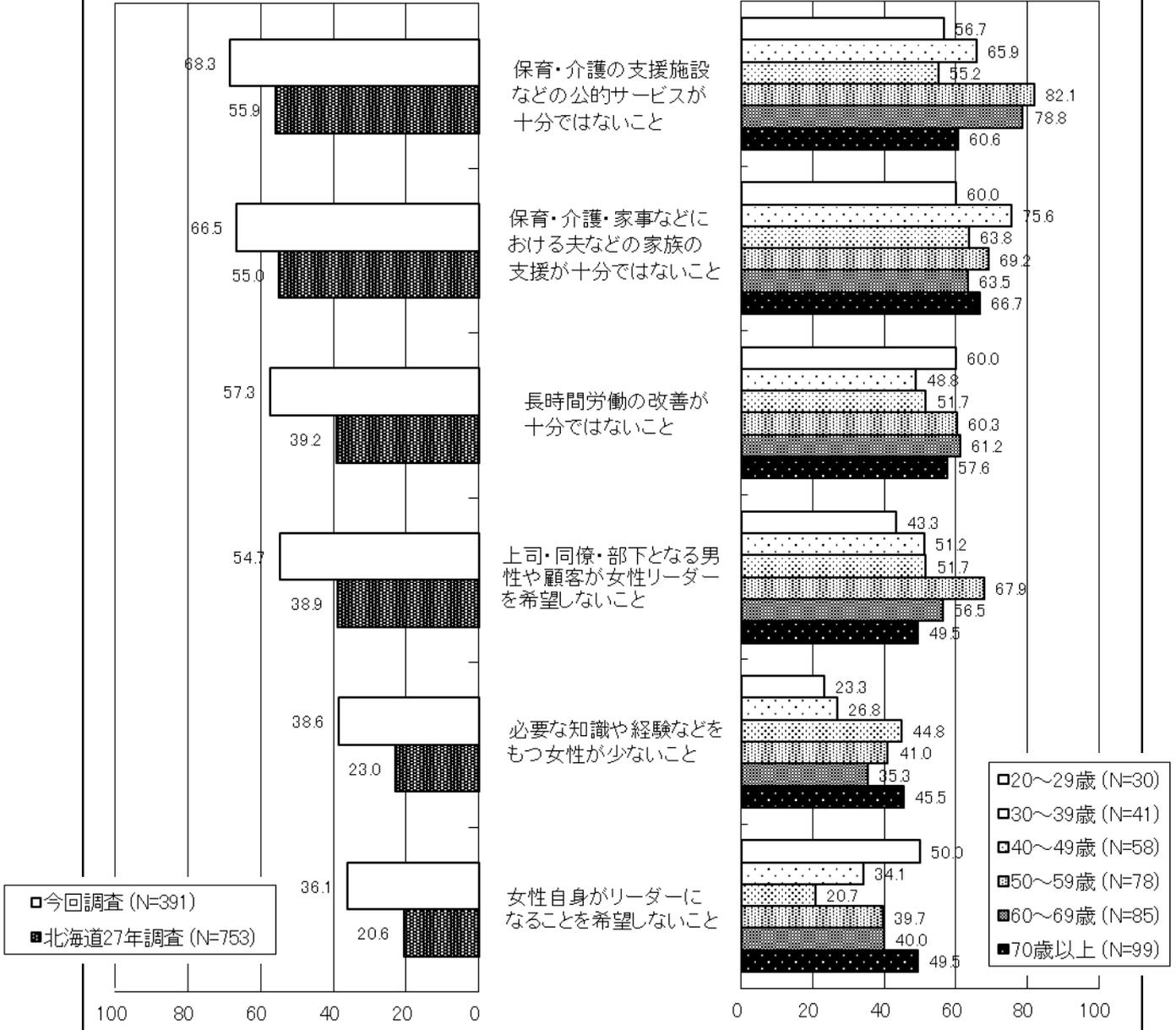
○女性のリーダーを増やすときに障害となるものについて、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」と答えた人の割合は68.3%と最も高く、次いで、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」と答えた人の割合は66.5%、以下「長時間労働の改善が十分ではないこと」(57.3%)、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」(54.7%)、「必要な知識や経験などをもつ女性が少ないこと」(38.6%)の順となっている。(上位5項目)

○北海道と比べて見ると、全ての項目において帯広市が高く「保育・介護の支援施設などの公的サービスが十分ではないこと」と答えた人の割合は北海道の55.9%に対し帯広市は68.3%、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」と答えた人の割合は北海道の55.0%に対し帯広市は66.5%、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」と答えた人の割合は、北海道の38.9%に対し帯広市は54.7%となっている。

○年代別で見ると、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」と答えた人の割合は50歳代で82.1%と高く、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」と答えた人の割合は30歳代で、「長時間労働の改善が十分ではないこと」と答えた人の割合は60歳代で、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」と答えた人の割合は50歳代で、それぞれ高くなっている。

○性別で見ると、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」と答えた人の割合は女性の方が、「長時間労働の改善が十分ではないこと」「必要な知識や経験などをもつ女性が少ないこと」と答えた人の割合は男性の方が、それぞれ高くなっている。

図15 女性のリーダーを増やすときに障害となるもの



**問16 あなたは、帯広市が男女共同参画社会づくりをすすめていくために、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。**

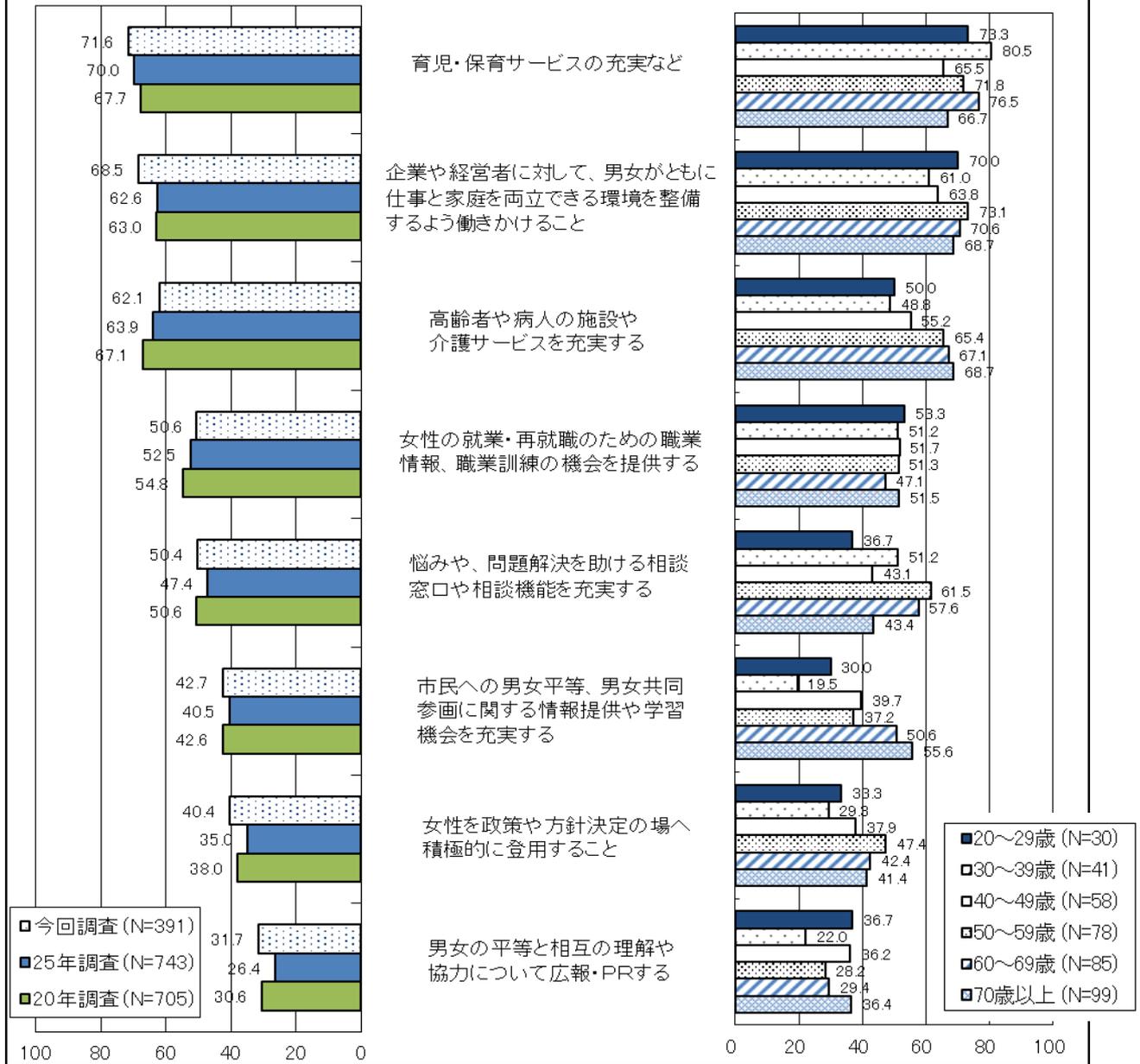
○帯広市が男女共同社会づくりをすすめていくために重要なことについて、「育児・保育サービスの充実など子育て支援を強化する」と答えた人の割合は71.6%、次いで、「企業や経営者に対して、男女がともに仕事と家庭を両立できる環境を整備するよう働きかけること」と答えた人の割合は68.5%と高く、以下「高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」(62.1%)、「女性の就職・再就職のための職業情報、職業訓練の機会を提供する」(50.6%)、「悩みや、問題解決を助ける相談窓口や相談機能を充実する」(50.4%)の順となっている。(上位5項目)

○25年調査と比べて見ると、「育児・保育サービスの充実など子育て支援を強化する」と答えた人の割合は25年調査の70.0%に対し今回調査は71.6%、「企業や経営者に対して、男女がともに仕事と家庭を両立できる環境を整備するよう働きかけること」と答えた人の割合は25年調査の62.6%に対し今回調査は68.5%といずれも高くなっている。

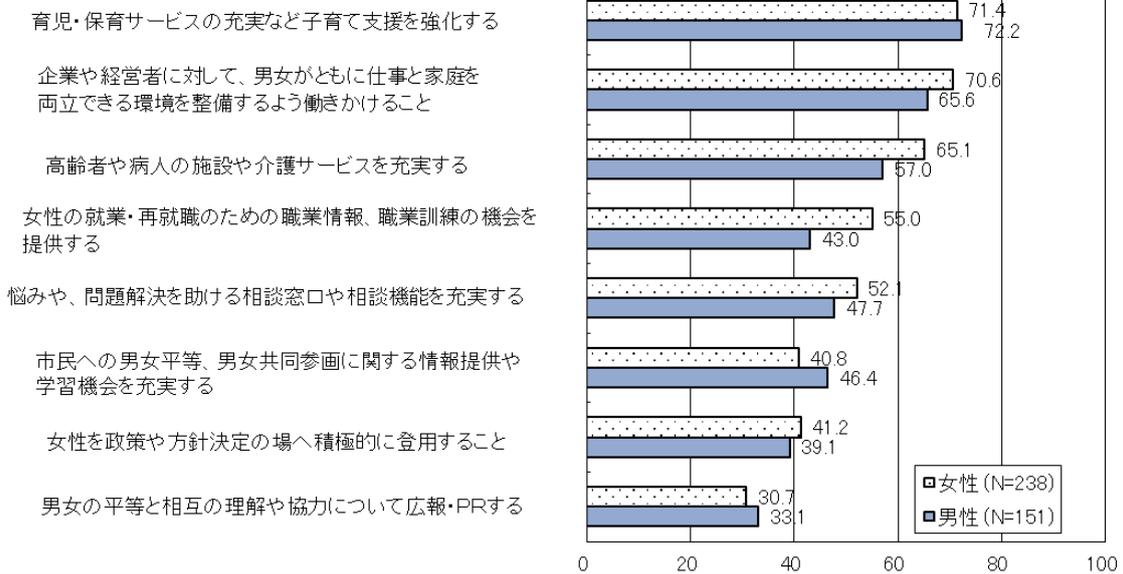
○年代別で見ると、「育児・保育サービスの充実など子育て支援を強化する」と答えた人の割合は30歳代で高く、「企業や経営者に対して、男女がともに仕事と家庭を両立できる環境を整備するよう働きかけること」と答えた人の割合は50歳代で、「高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」と答えた人の割合は70歳以上で、それぞれ高くなっている。

○性別で見ると、「企業や経営者に対して、男女がともに仕事と家庭を両立できる環境を整備するよう働きかけること」「高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」「女性の就職・再就職のための職業情報、職業訓練の機会を提供する」「悩みや、問題解決を助ける相談窓口や相談機能を充実する」と答えた人の割合は女性の方が、「育児・保育サービスの充実など子育て支援を強化する」と答えた人の割合は男性の方が、それぞれ高くなっている。

図16 帯広市が男女共同参画をすすめるために重要なこと



(男女別)



## 6. セクシュアル・マイノリティについて

問17 あなたは、「セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）」または「LGBT」という言葉（両方またはどちらか一方）を知っていましたか。次の中から、1つだけお選びください。

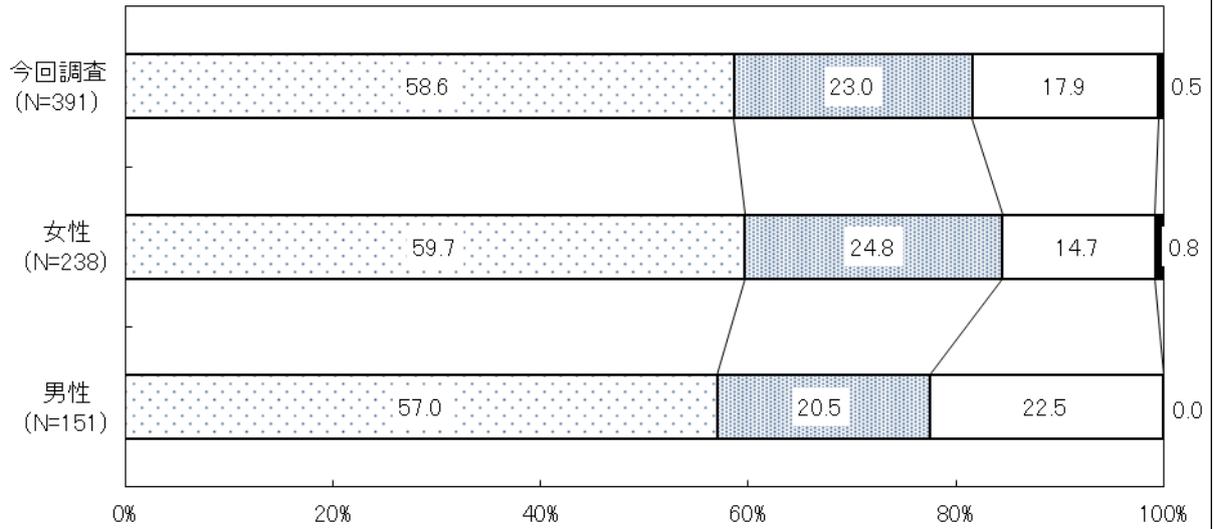
○「セクシュアル・マイノリティ」または「LGBT」という言葉について「言葉も意味も知っていた」と答えた人の割合は58.6%、次いで、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」と答えた人の割合は23.0%、「言葉も意味も知らなかった」と答えた人の割合は17.9%となっている。

○性別で見ると、「言葉も意味も知っていた」「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」と答えた人の割合は女性の方が、「言葉も意味も知らなかった」と答えた人の割合は男性の方が、それぞれ高くなっている。

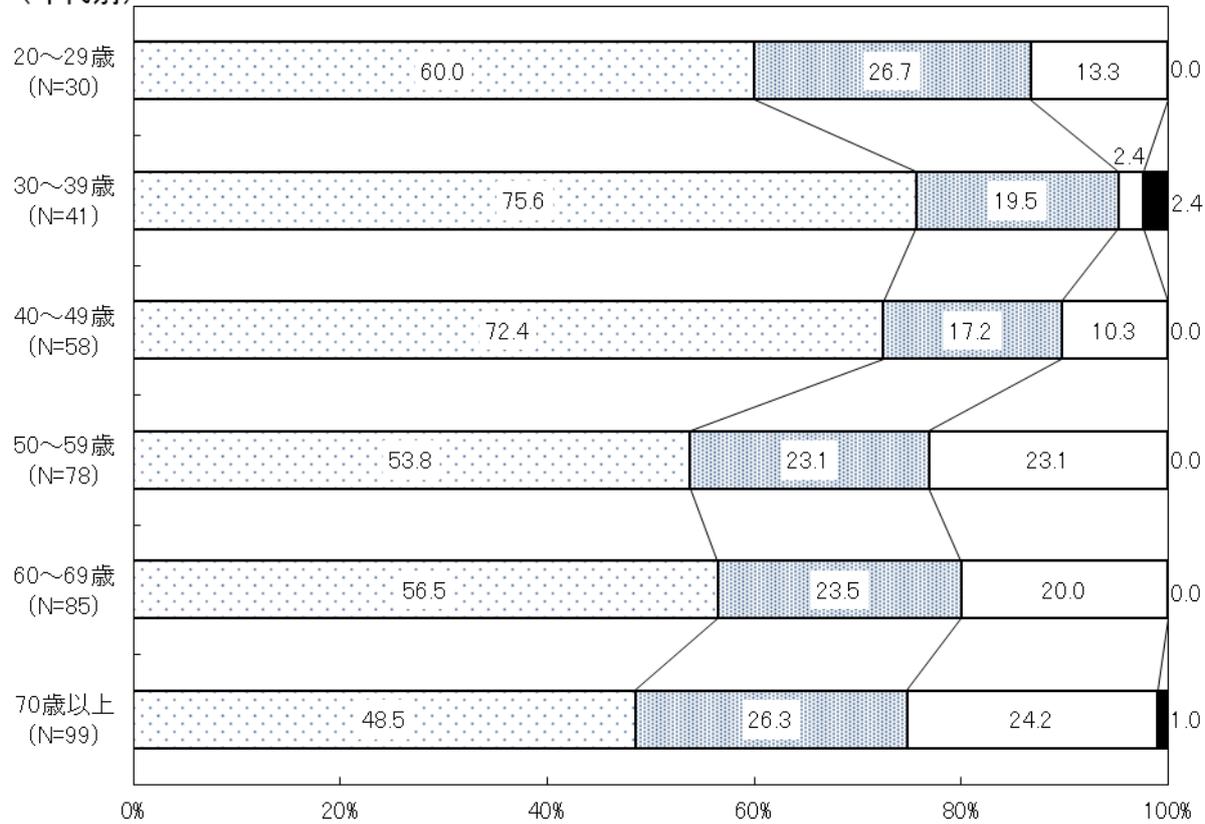
○年代別で見ると、「言葉も意味も知っていた」と答えた人の割合は30歳代及び40歳代で高く、「言葉も意味も知らなかった」と答えた人の割合は50歳代以上で高くなっている。

(男女別)

図17 セクシュアル・マイノリティ、LGBTという言葉



(年代別)



- 言葉も意味も知っていた
- ▨ 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
- 言葉も意味も知らなかった
- 無回答

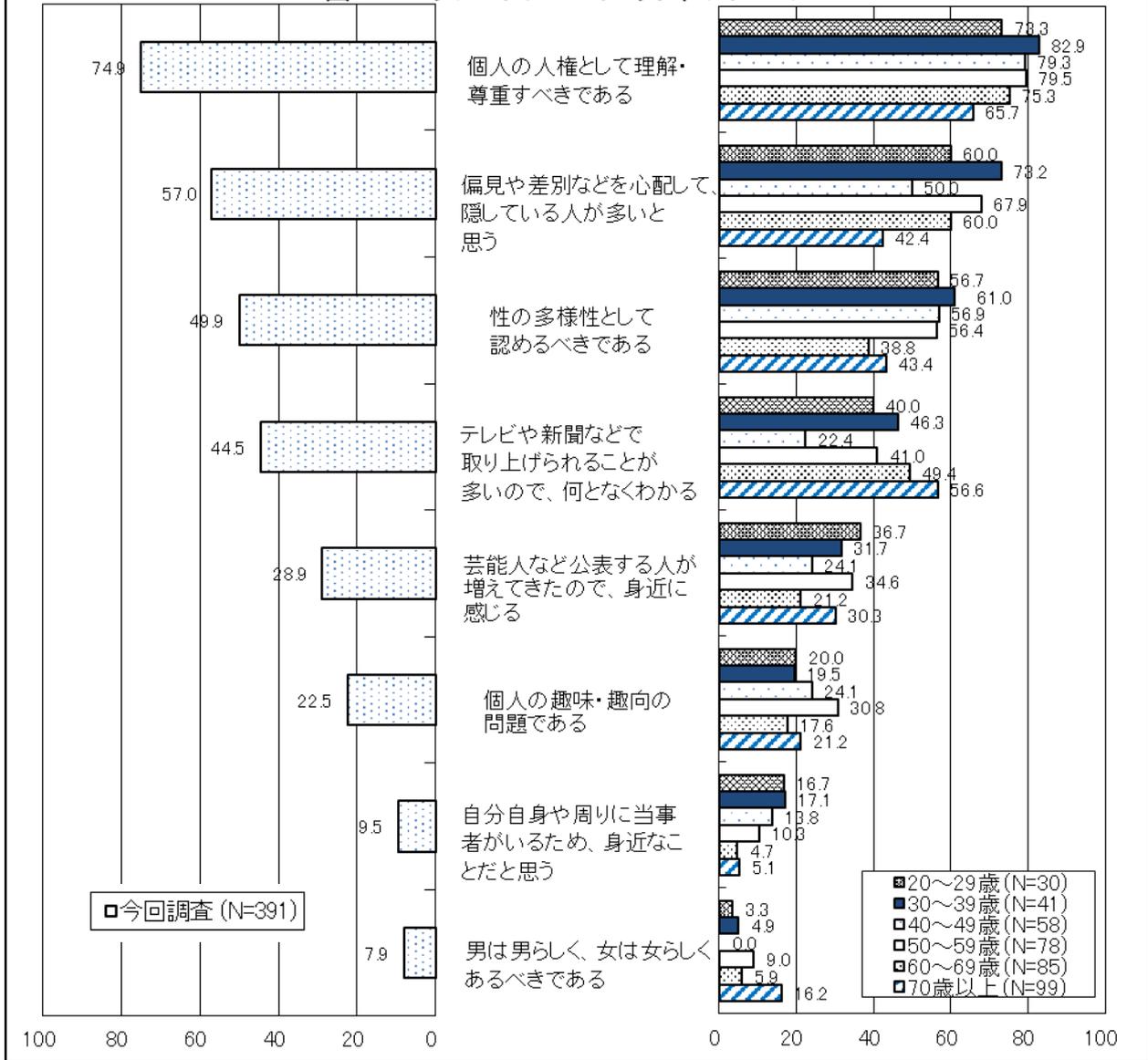
**問18 あなたは、セクシュアル・マイノリティについて、どのような考えやイメージをお持ちですか。  
次の中から、いくつでもお選びください。**

○セクシュアル・マイノリティのイメージについて、「個人の人権として理解・尊重すべきである」と答えた人の割合は74.9%と最も高く、次いで、「偏見や差別などを心配して、隠している人が多いと思う」と答えた人の割合は57.0%、以下「性の多様性として認めるべきである」(49.9%)、「テレビや新聞などで取り上げられることが多いので、何となくわかる」(44.5%)、「芸能人など公表する人が増えてきたので、身近に感じる」(28.9%)の順となっている。(上位5項目)

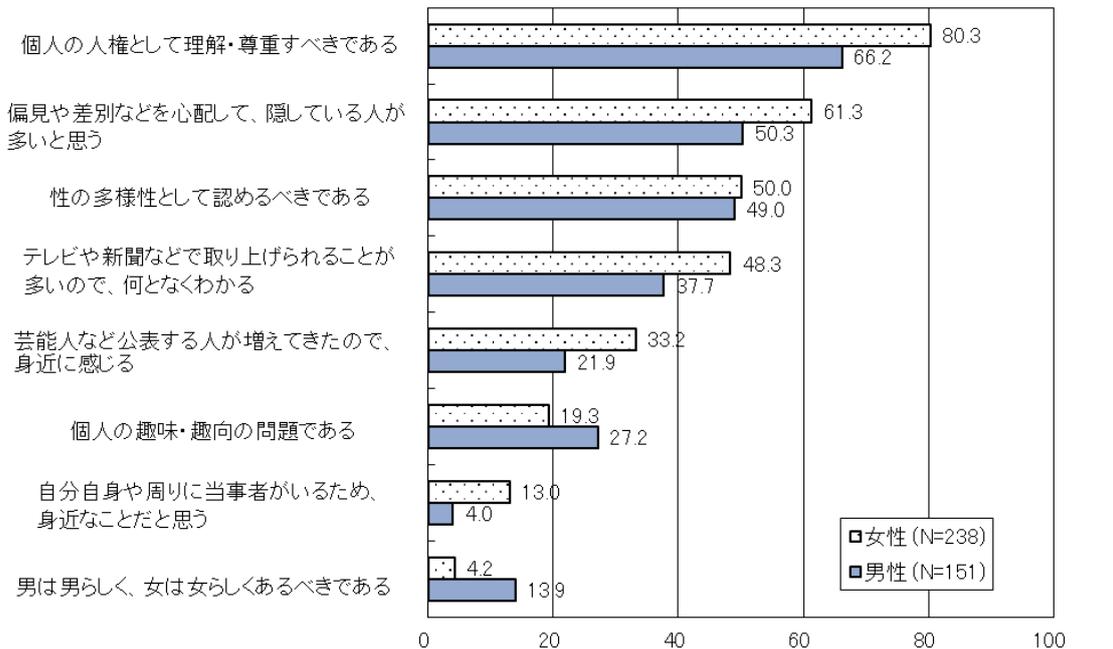
○年代別で見ると、「個人の人権として理解・尊重すべきである」「偏見や差別などを心配して、隠している人が多いと思う」「性の多様性として認めるべきである」と答えた人の割合は30歳代で高く、「テレビや新聞などで取り上げられることが多いので、何となくわかる」と答えた人の割合は70歳代で高く、「芸能人など公表する人が増えてきたので、身近に感じる」と答えた人の割合は20歳代で、それぞれ高くなっている。

○性別で見ると、「個人の人権として理解・尊重すべきである」「偏見や差別などを心配して、隠している人が多いと思う」と答えた人の割合は女性の方が、「個人の趣味・趣向の問題である」「男は男らしく、女は女らしくあるべきである」と答えた人の割合は男性の方が、それぞれ高くなっている。

図18 セクシュアル・マイノリティのイメージ



(男女別)



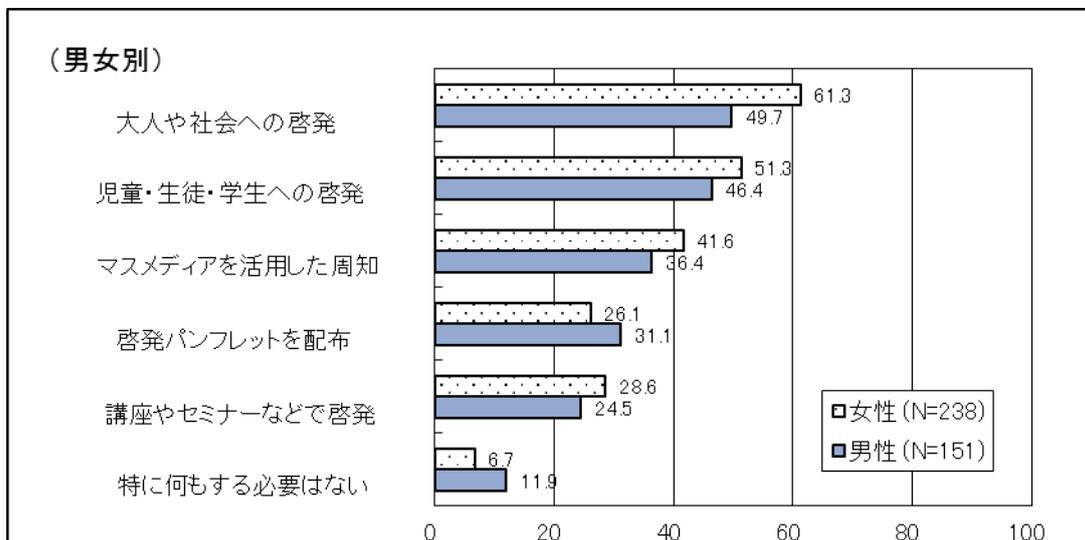
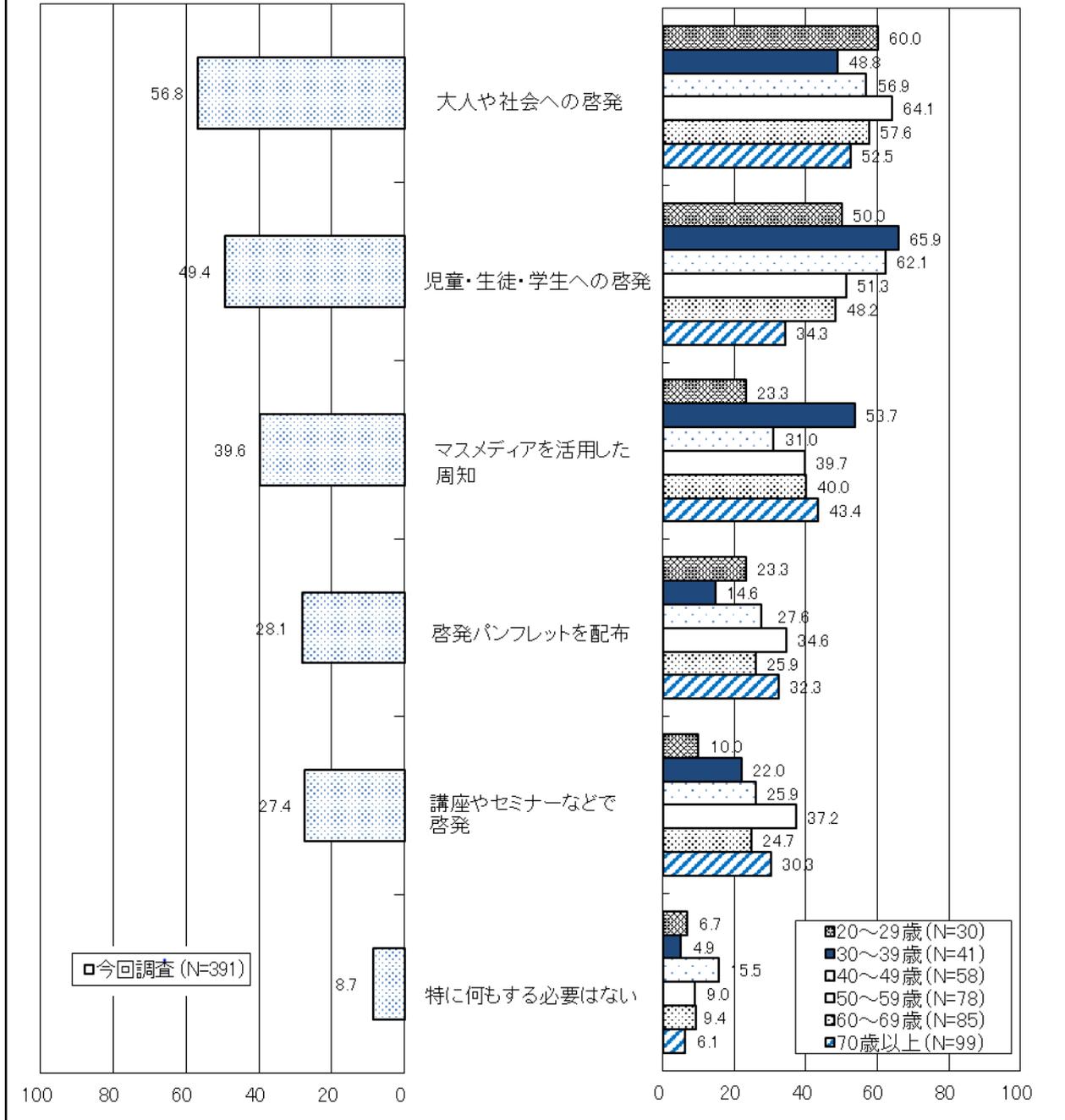
**問19 あなたは、セクシュアル・マイノリティに関して、理解をすすめるためにどのようなことが必要と考えますか。次の中から、いくつでもお選びください。**

○セクシュアル・マイノリティに関して理解をすすめるために必要なことについて、「大人や社会への啓発」と答えた人の割合は 56.8%、次いで、「児童・生徒・学生への啓発」と答えた人の割合は 49.4%と高く、以下、「マスメディアを活用した周知」(39.6%)、「啓発パンフレットを配布」(28.1%)、「講座やセミナーなどで啓発」(27.4%)の順となっている。(上位5項目)

○年代別で見ると、「大人や社会への啓発」「講座やセミナーなどで啓発」「啓発パンフレットを配布」と答えた人の割合は 50 歳代で、「児童・生徒・学生への啓発」「マスメディアを活用した周知」と答えた人の割合は 30 歳代で、それぞれ高くなっている。

○性別で見ると、「大人や社会への啓発」「児童・生徒・学生への啓発」「マスメディアを活用した周知」「講座やセミナーなどで啓発」と答えた人の割合は女性の方が、「啓発パンフレットを配布」と答えた人の割合は男性の方が、それぞれ高くなっている。

図19 セクシュアル・マイノリティへの理解をすすめるには



## 調査全体をとおして

### 1. 男女共同参画に関する言葉について

- ・問1にあるように、男女共同参画に関する見たり聞いたりしたことのある言葉については、「DV（配偶者からの暴力）」と「男女雇用機会均等法」が高かったほか、「ジェンダー（社会的、文化的に形成された性別）」と「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」が前回調査よりは大きく増加している。また、「男女共同参画社会」は、前回調査よりも増加したものの国と比べると低く、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」については、あまり認知されていなかった。
- ・調査結果から、男女共同参画に関する言葉について認知が一定程度進んできているが、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」、「ジェンダー（社会的、文化的に形成された性別）」など一部の言葉についての認知度は、前回調査よりも増加しているものの他の言葉と比べると低く、今後においても男女共同参画の意義とあわせて周知・啓発が必要と考えられる。

### 2. 家庭生活について

- ・問2にあるように、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方については、「賛成」が前回調査より減少し、「反対」が前回調査より増加したほか、問3の「家事、育児、介護の役割分担」は、「男女とも同じように家事、育児、介護を行うのがよい」と、「どちらでも手のあいている方が家事、育児、介護をすればいい」が前回調査よりそれぞれ増加し、「家事、育児、介護は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」が前回調査より減少となった。20年調査以降で見ても賛成が減少、反対が増加傾向となっており、男女ともに家事、育児、介護に対する意識が変化してきている結果となった。
- ・問4にあるように、男性が家事・育児等に参加するために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、「男性が家事、育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「男性による家事、育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」など、男性自身のみならず、職場などの意識の改革を求める項目が上位を占める結果となった。
- ・問5、問6にあるように、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、希望は「『仕事』と『家庭生活』を優先したい」が最も多いが、現実には、男性は「『仕事』を優先している」、女性は「『家庭生活』を優先している」という割合が高くなっており、性別によって希望と現実の間のギャップの違いが見られた。
- ・調査結果から、固定的な性別役割分担の解消に向けた意識が浸透しつつあるものの、現実では、男性は「仕事」、女性は「家庭生活」を優先する傾向が見られた。希望を実現するためには、「仕事」と家事・育児等の「家庭生活」を共に優先し、両立できるよう家庭や職場における意識の改革や、働く環境の整備等が必要と考えられる。

### 3. 職業について

- ・問7にあるように、女性が職業を持つ事に関しては、20年調査以降「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が増加傾向にあり、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」を今調査で初めて上回るなど、女性が継続して職業をもつことに対する意識の変化が見られた。一方で、国の調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は、まだ低い割合となっている。
- ・問8-1にあるように、「女性の働きやすさ」については、「働きやすい」との回答より「働きやすくない」と回答した割合が高く、20年調査以降大きな変化は見られなかった。問8-2の女性が働きやすくない理由を問う設問では、男女ともに「育児施設が十分整備されていない」「労働条件が整っていない」「働く場が限られている」といった、働くための条件・環境をあげる回答が多かったほか、「結婚・出産退職の慣行がある」「家庭の理解、協力が得にくい」「男は仕事、女は家庭という社会通念がある」といった社会

慣行・通念をあげる回答も根強く残っている。

- ・調査結果から、女性が働き続けることに対して、男女ともに意識の変化は見られたが、現実には、女性の働きやすさには変化が見られない状態にある。子どもができて女性も働きやすい社会を作るためには、育児施設の整備のほか、事業所に対する育児休業制度や短時間勤務などの制度の周知を進め、働きつづけることができる条件・環境の整備を促進することが必要と考えられる。

#### **4. 男女の人権について**

- ・問9にあるように、女性の人権が尊重されていないと感じることについては、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」「痴漢行為」など性的な項目が上位になっているほか、「男女の固定的な役割分担意識」が前回調査より増加している。
- ・問10-1、問11にあるように、DV、セクハラを経験したり見聞きしたりしたことについては、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が最も多く、DV、セクハラについてある程度認知が進んでいるものと考えられる。
- ・DV、セクハラについて、「自分が直接被害を受けた経験がある」と答えた人の割合は、いずれも女性の方が高くなっている。また、問10-2にあるように、DV被害について「友人・知人」、「家族・親族」などに相談したという割合が前回調査より増加した。一方で、「相談しなかった」という割合は前回調査より減少しているものの、約3割あるという結果となった。
- ・調査結果から、テレビや新聞報道などによりDV、セクハラについての認知が進み、被害について相談している人の割合に増加がみられるが、依然として相談していない被害者もいることから、今後においても相談窓口活用について周知が必要と考えられる。

#### **5. 男女共同参画について**

- ・問13にあるように、女性の意見が政治や行政に反映されているかについて、「反映されている」との回答より「反映されていない」と回答した割合が高く、20年調査以降、ほとんど変化が見られなかった。
- ・問14にあるように、各分野での男女の地位について、「学校教育の場」が最も「平等」と考えられており、「政治の場」、「社会通念・慣習しきたりなど」、「社会全体」は、「男性の方が優遇」の回答が特に多く、また、「政治の場」においては、「女性の方が優遇」の回答が最も少なかった。「社会全体」の20年調査以降の結果をみると、「男性の方が優遇されている」とする人の割合が高いまま推移し、ほとんど変化が見られなかった。
- ・調査結果から、女性の意見が政治や行政に反映されていない、また、社会全体における男女の地位の平等感では、男性が優遇されている、と感じている人の割合は20年調査以降ほとんど変化が見られないことから、今後においても国や北海道の取り組みとも連動しながら、男女平等意識の浸透・定着、男女共同参画社会の実現に向けて更なる取り組みを進めることが必要と考えられる。

#### **6. セクシュアル・マイノリティについて**

- ・問17にあるように、「セクシュアル・マイノリティ」または「LGBT」という言葉の認知度については、「言葉も意味も知っていた」と答えた人の割合が、男女とも最も多く約6割あった。
- ・問18にあるように、セクシュアル・マイノリティへのイメージについては、「個人の人権として理解・尊重すべきである」「性の多様性として認めるべきである」など理解のある回答が上位を占めている一方で、「偏見や差別などを心配して隠している人が多いと思う」との回答も多かった。
- ・調査結果から、約4割の人が言葉の意味を知らず、また、問18にあるように偏見や差別があると感じていることも多いことから、セクシュアル・マイノリティについて理解を進めるための啓発が必要と考えられる。

今調査から、男女共同参画社会の実現に向けた阻害要因となっている「固定的な性別による役割分担」は、解消に向けた意識が浸透しつつあるものの、現実的には、男性は仕事、女性は家庭を優先している結果が見られた。

女性が職業をもつことについては、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と考える人が増加している一方で、女性が働き続けるための環境や条件整備が不十分であるとの結果が見られた。

DV・セクハラについては、重大な人権侵害であるという認知が進んだことにより、事案が顕在化してきているものの、DV被害者の3割が相談していない状況が明らかになった。

政治や行政への女性の意見については、依然として反映されていないという回答が多く、また、政治の場をはじめとした社会における男女の地位の平等感においても、男性が優遇されていると感じている人の割合が高く、過去の調査から変化は見られなかった。

国においては、少子高齢化、人口減少社会を背景として、平成27年に女性活躍推進法を公布し、女性の政策・方針決定過程への参画や、女性に対する暴力被害者への支援の充実、結婚・出産などのライフステージに合わせた働き方の選択など、女性活躍の場の拡大のための取り組みを進めてきている。

今後においては、本調査の結果も踏まえ、国や北海道と連動した効果的な事業や意識啓発の取り組みについて検討し、様々な課題を解消し男女共同参画社会の実現に向けて取り組んでいく。

### Ⅲ 調査票

次の質問の答えで、該当する番号を回答用紙にご記入ください。

#### あなたご自身のことについてお伺いします

I あなたの性別をお答えください。

- 1 女性
- 2 男性
- 3 その他

II あなたの年齢はおいくつですか。(平成30年3月31日現在)

- 1 20～29歳
- 2 30～39歳
- 3 40～49歳
- 4 50～59歳
- 5 60～69歳
- 6 70歳以上

III あなたは現在結婚していますか。

- 1 現在結婚している(事実婚などを含む)
- 2 結婚したことはあるが、現在独身(死別含む)
- 3 結婚したことがない(未婚)

※ IIIで「1 現在結婚している」を選んだ方にお伺いします。あなたの家庭は共働き(パートタイムを含む)ですか。

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 その他(具体的に )

IV あなたは今、働いていますか。それはどのようなお仕事ですか。

- |     |   |   |                              |
|-----|---|---|------------------------------|
| 自営業 | ┌ | 1 | 農林漁業                         |
|     | ├ | 2 | 商工サービス業                      |
|     | └ | 3 | 自由業(弁護士・作家・開業医など)            |
| 雇用者 | ┌ | 4 | 民間会社、工場、商工サービス業など(パートタイムを含む) |
|     | └ | 5 | 公務員、教員                       |
| 無職  | ┌ | 6 | 主婦(他に仕事を持たない)                |
|     | ├ | 7 | 学生                           |
|     | └ | 8 | その他無職                        |
| その他 |   | 9 | その他(具体的に )                   |

## 言葉についてお伺いします

問1 次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものを、いくつでもお選びください。

- 1 男女共同参画社会
- 2 育児介護休業法
- 3 女子差別撤廃条約
- 4 ジェンダー（社会的、文化的に形成された性別）
- 5 ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
- 6 DV（配偶者からの暴力）
- 7 男女雇用機会均等法
- 8 女性活躍推進法
- 9 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
- 10 見たり聞いたりしたものはない

## 家庭生活についてお伺いします

問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対
- 5 わからない

問3 一般的に、家庭での家事、育児、介護の役割分担について、あなたはどのように考えますか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 男女とも同じように家事、育児、介護を行うのがよい
- 2 どちらでも手のあいている方が家事、育児、介護をすればよい
- 3 家事、育児、介護は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい
- 4 男性は家事、育児、介護をしなくてもよい
- 5 その他（具体的に )
- 6 わからない

**問4** 今後、男性が家事、育児、介護、町内会やボランティアなどの地域活動に、積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 男性が家事、育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事、育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で、男性による家事、育児などについても、その評価を高めること
- 6 男性による家事、育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
- 7 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 8 男性の家事、育児などについての関心が高まるよう啓発や情報提供を行うこと
- 9 男性が家事、育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
- 10 その他（具体的に \_\_\_\_\_）
- 11 わからない

**問5** 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についてお伺いします。まず、あなたの希望に最も近いものを次の中から、1つだけお選びください。

- 1 「仕事」を優先したい
- 2 「家庭生活」を優先したい
- 3 「地域・個人の生活」を優先したい
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 8 わからない

**問6** それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものを次の中から、1つだけお選びください。

- 1 「仕事」を優先している
- 2 「家庭生活」を優先している
- 3 「地域・個人の生活」を優先している
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 8 わからない

## 職業についてお伺いします

問7 女性が職業をもつことについて、あなたはどうか考えですか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 女性は職業をもたない方がよい
- 2 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 5 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 6 その他（具体的に )
- 7 わからない

問8-1 現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 大変働きやすい状況にあると思う
- 2 ある程度働きやすい状況にあると思う
- 3 あまり働きやすい状況にあるとは思わない
- 4 働きやすい状況にあるとは思わない
- 5 一概にはいえない
- 6 わからない

問8-2 問8-1で「3 あまり働きやすい状況にあるとは思わない」または「4 働きやすい状況にあるとは思わない」とお答えの方に伺います。それは、どのような理由からでしょうか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 働く場が限られている
- 2 能力発揮の場が少ない
- 3 労働条件が整っていない
- 4 育児施設が十分整備されていない
- 5 昇進、教育訓練等に男女の差別的扱いがある
- 6 結婚・出産退職の慣行がある
- 7 「男は仕事、女は家庭」という社会通念がある
- 8 家庭の理解、協力が得にくい
- 9 その他（具体的に )
- 10 わからない

## 男女の人権についてお伺いします

問9 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 売春・買春
- 2 女性の働く風俗営業
- 3 家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力
- 4 セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
- 5 女性のヌード写真などを掲載した雑誌
- 6 女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など
- 7 女性の容姿を競うミス・コンテスト
- 8 ストーカー行為（つきまとい行為）
- 9 痴漢行為
- 10 昇給・昇進・給与の格差など、職場における男女の待遇の違い
- 11 男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）
- 12 その他（具体的に )
- 13 わからない

問10-1 あなたは、配偶者や恋人、パートナーなど親密な関係にある人からの暴力、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス（DV）」について、経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 自分が直接被害を受けた経験がある
- 2 相談を受けたことがある
- 3 相談を受けたことはないが、当事者を知っている
- 4 テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
- 5 見聞きしたことはない
- 6 その他（具体的に )
- 7 分からない

問10-2 問10-1で「1 自分が直接被害を受けた経験がある」とお答えの方に伺います。あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）について、どこかに相談しましたか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 家族・親族
- 2 友人・知人
- 3 警察
- 4 医師
- 5 弁護士
- 6 帯広市の女性相談
- 7 その他の行政の相談機関
- 8 民間の相談機関
- 9 相談しなかった
- 10 その他（具体的に )

**問 11** あなたは、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」について、経験したり、見聞きしたことがありますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 自分が直接被害を受けた経験がある
- 2 相談を受けたことがある
- 3 相談を受けたことはないが、当事者を知っている
- 4 テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
- 5 見聞きしたことはない
- 6 その他（具体的に \_\_\_\_\_）
- 7 分からない

**問 12** 性犯罪や配偶者からの暴力など、女性に対する暴力をなくすために、どのようにしたらよいと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 法律・制度の制定や見直しを行う
- 2 犯罪の取り締まりを強化する
- 3 捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害を受けた女性が届けやすいような環境をつくる
- 4 被害女性を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる
- 5 被害女性のための相談機関や保護施設を整備する
- 6 家庭における男女平等についての教育を充実させる
- 7 学校における男女平等についての教育を充実させる
- 8 メディア（テレビ、新聞、雑誌など）が自主的取り組みを強化し、暴力を無批判に取り扱わないようにする
- 9 過激な暴力表現を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する
- 10 その他（具体的に \_\_\_\_\_）
- 11 わからない

### 男女共同参画についてお伺いします

**問 13** あなたは、女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思いますか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 十分反映されている
- 2 ある程度反映されている
- 3 あまり反映されていない
- 4 ほとんど反映されていない
- 5 その他（具体的に \_\_\_\_\_）
- 6 わからない

**問 14** あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。  
1～6の中から、あなたの気持ちに最も近いものを1つだけお選びください。

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
(ア) 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場で	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(エ) 政治の場で	1	2	3	4	5	6
(オ) 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
(カ) 社会通念・慣習しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
(キ) 社会全体で	1	2	3	4	5	6

**問 15** 問 14 でお聞きした分野において、女性のリーダーを増やすときに障害となるものは、何だと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
- 2 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
- 3 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
- 4 長時間労働の改善が十分ではないこと
- 5 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
- 6 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
- 7 その他（具体的に \_\_\_\_\_ )
- 8 わからない

**問 16** あなたは、帯広市が男女共同参画社会づくりをすすめていくために、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 市民への男女平等、男女共同参画に関する情報提供や学習機会を充実する
- 2 悩みや、問題解決を助ける相談窓口や相談機能を充実する
- 3 育児・保育サービスの充実など子育て支援を強化する
- 4 高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
- 5 女性の就職・再就職のための職業情報、職業訓練の機会を提供する
- 6 女性を政策や方針決定の場へ積極的に登用すること
- 7 企業や経営者に対して、男女がともに仕事と家庭を両立できる環境を整備するよう働きかけること
- 8 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする
- 9 その他（具体的に \_\_\_\_\_ )
- 10 わからない

## セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）についてお伺いします

セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）とは、同性愛者、両性愛者、トランスジェンダーなど、「性」のあり方が典型的ではないと言われている人々のこと。

LGBTとは、セクシュアル・マイノリティの一部で、L（レズビアン：女性の同性愛者）、G（ゲイ：男性の同性愛者）、B（バイセクシュアル：両性愛者）、T（トランスジェンダー：性同一性障害など）の頭文字を合わせた言葉です。

**問 17** あなたは、「セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）」または「LGBT」という言葉（両方またはどちらか一方）を知っていましたか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 言葉も意味も知っていた
- 2 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
- 3 言葉も意味も知らなかった

**問 18** あなたは、セクシュアル・マイノリティについて、どのような考えやイメージをお持ちですか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 性の多様性として認めるべきである
- 2 個人の人権として理解・尊重すべきである
- 3 自分自身やまわりに当事者がいるため、身近なことだと思う
- 4 テレビや新聞などで取り上げられることが多いので、何となくわかる
- 5 芸能人など公表する人が増えてきたので、身近に感じる
- 6 偏見や差別などを心配して、隠している人が多いと思う
- 7 個人の趣味・趣向の問題である
- 8 男は男らしく、女は女らしくあるべきである
- 9 その他（具体的に \_\_\_\_\_ )
- 10 わからない

**問 19** あなたは、セクシュアル・マイノリティに関して、理解をすすめるためにどのようなことが必要と考えますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 講座やセミナーなどで啓発
- 2 啓発パンフレットを配布
- 3 児童・生徒・学生への啓発
- 4 大人や社会への啓発
- 5 マスメディアを活用した周知
- 6 特に何もする必要はない
- 7 その他（具体的に \_\_\_\_\_ )
- 8 わからない

最後までアンケートにご協力いただきありがとうございました。

回答用紙の最後に、「男女共同参画社会」に関するご意見、ご要望などがございましたら、ご記入願います。